

奈良・京都

修学旅行のしおり



大和は 国のまほろば たたなづく
青垣山 こもれる 大和し 美わし

行く秋の 大和の国の 薬師寺の
塔の上なる ひとひらの雲

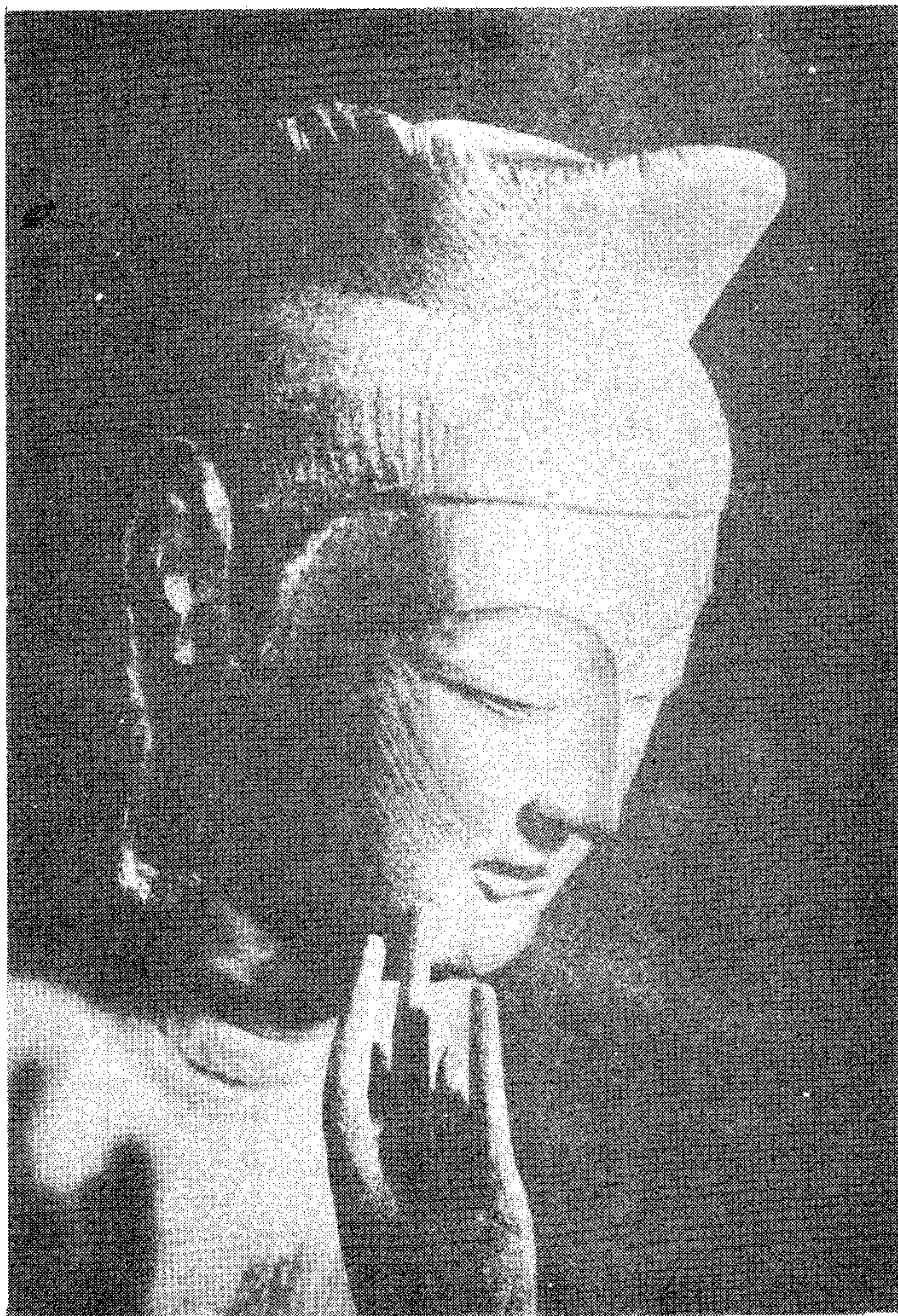
山風に 峰のささ栗 はらはらと
庭におちしく 大原の里

かにかくに 祇園は恋し 寝るにさえ
枕の下を 水の流るる

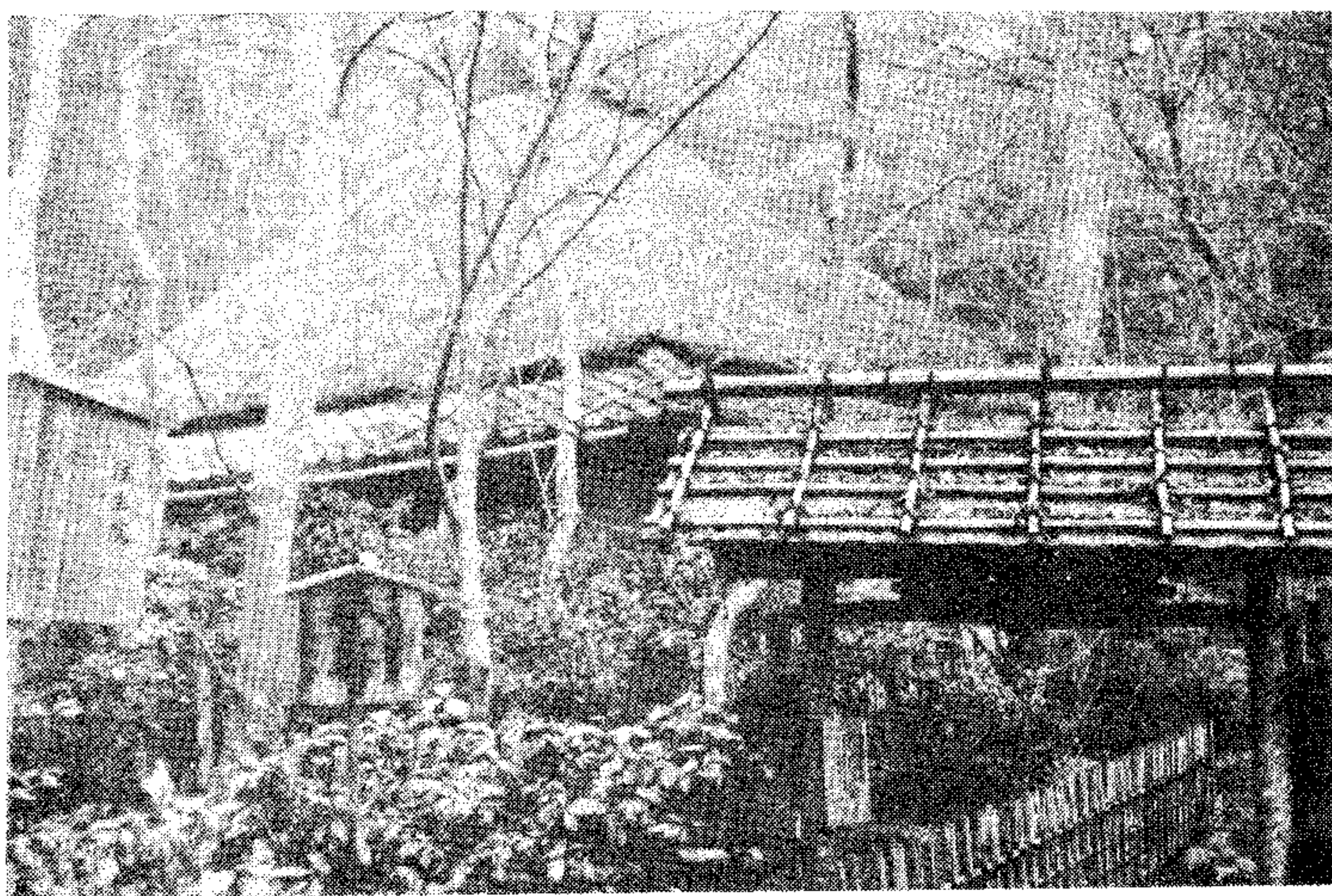
幾山河 こえさりゆかば 寂しさの
はてなむ国ぞ けふも旅ゆく



東大寺三月堂 月光菩薩像 (天平時代 塑造)



広隆寺弥勒菩薩像



祇王寺

修学旅行の思い出

織 田 富 勝

夜の東京駅集合で出かけて行ったら、駅で本校の先生といっしょになった。集合予定の場所へ行ったが、本校生が見あたらない。あと2・3の団体がいたので、そちらへいっしょにさがしに行ったが、全然違う。さてと、もう一度最初のところへもどいたら、なんとこれが新宿高校の生徒であった。自分の学校の生徒がわからないとは、少しオイボケタかなと思ったが、いっしょにいた先生は、私よりずっと若かった……………。

帰途、大阪駅で、他の都立高校の修学旅行団といっしょになった。その校長いわく、“おたくの定時制の生徒は多いですね…………”



自由見学の京都市内を、先生方で手分けしてまわることにした。私も他の先生といっしょに、淋しい町はずれをまわっていた。ところどころに、一見して修学旅行の生徒と思われるグループがたむろしている。最近では、どの高校も、このような自由見学が盛んなのだと考えながら歩いていると、その1群から“先生っ／＼”と声がかかった。見れば、手に印刷物とメモを持ちながら、建物について盛んに議論をしている。新宿高校生だった／＼いわば、異国の土地で親友に会ったような嬉しさと、何ともいえぬ頼もしさを覚えた。



“お早ようございます。昨夜はよくやすまれましたか？”に始まるガイドさんの声に、ポンポン受け答えする声を聞いていると、ひしひしと若さを感じる。

また、窓外の景色そこのけで、議論を吹っかけられるのも亦楽しいものである。

それにもまして、車中一同のコーラスに聞きほれたり、自分もいっしょに歌い出したりすると、“ああっ高校の教師になってよかった／＼”としみじみ思う。

元気で、いってきなさい！

修学旅行上の注意

1. 旅行の前に

- a . 服 装 標準服を原則とする。パッチは必ずつける。
- b . 携 帯 品 日用品（洗面具・石けん・ちり紙・ハンカチ）
着更類（下着・靴下）寝巻ないしパジャマ・セーター・雨具・持薬（酔止めの薬など）弁当一食分・懐中電灯・ビニール袋・地図類・旅行のしおり・身分証明書（携帯品には記名し、カメラ・時計などの番号をひかえておく）
- c . 小 遺 3,000 円位にとどめ、分散して持つ
- d . 集合時刻 厳守する。事故、病気で参加できない場合は、すみやかに学校へ電話連絡する
(341 - 0041 - 3859)

2. 保健衛生

- a . 睡眠を十分にとる。睡眠不足は病気・事故のもとになる。
- b . 暴飲暴食を慎む。（腹八分目）
- c . 急病・事故のある時は直ちに先生に連絡する。
- d . 気温の変化に合わせて被服の調節をする。

3. 乗物の中で

- a . 先生・旅行委員・乗務員などの注意や指示に従う。
- b . 危険な行動をとらない。例えば、窓から頭や手をださない。
- c . 乗物内の清潔を保ち、他の乗客に迷惑をかけない。

4. 旅館内で

- a . 貴重品は部屋ごとにまとめ、帳場に預ける。
- b . 非常の場合に備えて、あらかじめ非常口や旅館の構造をよく見ておく。
- c . 持物の整理整頓に心がけ、清潔を保つ。
- d . 同室の友人、隣室の人々、旅館の従業員に迷惑をかけることは厳重に慎むこと。

5. 行動について

- a . 集合時刻, 門限を厳守する。
- b . 規律を守り, 品位と節度ある行動をとる。
- c . 落ちついた機敏な行動をする。
- d . 自由行動の際はグループごとに行動する。

発着の時は必ず係の先生に報告する。

日 程

第1日(3月20日月曜日)

7:00 東京駅八重洲中央口集合
 8:00 東京駅発
 10:45 京都駅着
 12:15 奈良大文字旅館着
 13:00 奈良グループ見学出発
 17:30 帰宿
 18:00 夕食
 21:30 点呼
 22:00 消灯・就寝

第2日(3月21日火曜日)

6:00 起床
 7:00 朝食
 8:00 出発(クラス別バス見学)

長谷・室生コース(C組)

奈良=====長谷寺=====室生寺=====京都

斑鳩コース(B・E・G組)

奈良=====法隆寺.....10:30中宮寺.....法輪寺.....法起寺.....13:30
 ...慈光院=====京都

柳生・南山城コース(F組)

奈良=====円成寺.....9:15滝坂道.....新薬師寺入口=====13:00浄瑠璃
 寺=====15:00京都

山の辺コース(A・D・H組)

奈良=====石上神社.....9:15長岳寺.....崇神・景行陵.....13:30
 =====京都

17:00 京都御殿荘着

18:00 夕食
21:30 点呼
22:00 消灯・就寝

第3日（3月22日水曜日）

6:00 起床
7:00 朝食
8:00 出発（京都 グループ別自由見学）
17:30 御殿荘着
18:00 夕食
21:30 点呼
22:00 消灯・就寝

第4日（3月23日木曜日）

6:00 起床
7:00 朝食
8:00 出発（京都 グループ自由見学）
15:30 京都駅八条口集合
16:45 京都駅発
19:35 東京駅着
20:00 解散

注意 ① 夜の外出は19:00～21:00までである。

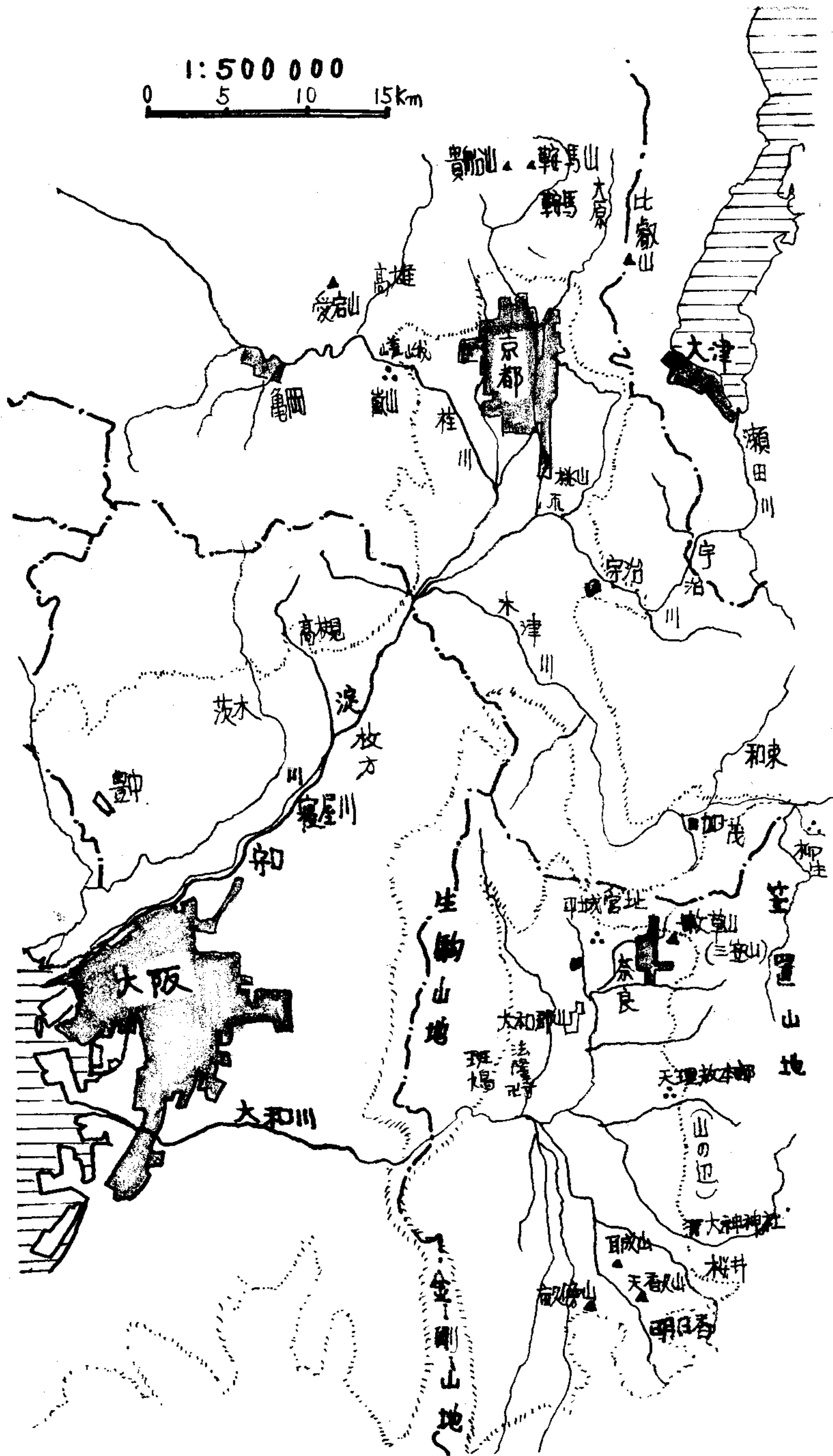
外出の際は先生の外出許可を得ること。

② 入浴は9:30までに切りあげること。

宿舎の住所及び電話番号

大文字旅館	奈良市奈良公園猿沢池畔五重塔前	TEL 0742(23)2263～2266
御殿荘	京都市左京区聖護院	TEL 075(771)4151

1:500 000
0 5 10 15km



見学の手引

【東大寺】

奈良市雑司町にある華嚴宗の大本山。

大華嚴寺ともいわれ、奈良時代に全国に創建された国分寺の中心であったため、総国分寺とも呼ばれた。天平15年（743）聖武天皇が国家の繁栄を仏教の力に頼って、実現しようとの願いをおこし、舎那仏鑄造の詔を発して創建された。創建以来二度の兵火をこうむったが、今なお天平期の数多くの名宝を納めている。

- 鎌倉期再建の南大門（天竺様）、その内部両側の金剛力士像（運慶・快慶作）から鎌倉文化の特徴をさぐる。

【三月堂】（国 宝）

天平期の創建で本堂と鎌倉時代の礼堂とがつながって一棟の建物となっているが、二つの様式がびったりとみごとな調和を示している。本尊の不空羅索観音像をはじめ、脇待の日光・月光菩薩立像・本来の脇待である梵天・帝釈天像・四天王像・金剛力士像・執金剛神像などを安置している。毎年陰暦三月に法華会がおこなわれるため、法華堂の名がある。

- 天平期の仏像をじっくりみておきたい。

【二月堂】

1669年の再建。本尊の十一面観音は絶対の秘仏で、拝した人はいないといわれている。陰暦二月にこの十一面観音を本尊として、お水取りの名で知られる修二会が行なわれるため、二月堂と呼ばれている。

- 堂の懸崖造は、清水寺と同様の構造である。

水取りや 籠りの僧の 沓の音 芭蕉

【大 仏 殿】（国 宝）

1709年に再建された。日本最大の木造建造物として知られ、創建時とほぼ同じ52mの高さをもつ。堂内には「奈良の大仏」として著名な本尊「**盧**舎那仏坐像」を安置するが、草創当初の天平のおもかげは台座連弁・左太腿の褶襞部分に残るだけで、胴体は鎌倉時代・頭部は江戸時代のものである。また、大仏殿の正面の前庭には金銅八角灯籠が立っている。

☞ 巨大な仏像を作った古代の人々の心と、労働の大きさについて考えよう。

【正 倉 院】

東大寺宝蔵としての正倉院は、八世紀中ごろまでに建造された高床・寄棟・校倉造・間口33m・奥行約9mの倉で南・中・北の三室に分かれている。武具・文房具・文書・楽器・仏具など聖武天皇生前愛用の珍宝が保存されてきた。現在は国有財産として宮内庁が管理し、宝物は別に設けられた温湿度調節のコンクリート造倉に収蔵されている。

☞ くぎが使用されているかどうか調べてみよう。

【戒 壇 院】（国 宝）

江戸時代に再建されたもの。戒壇とは、僧侶に戒をさずける儀式を行なう場所のことであり、大仏殿前の壇を西に移し、ひっそりとした空気の中に戒壇院が建てられた。

堂内の中央には多宝塔がまつられ、四隅には四天王像四体・木造愛染明王坐像・木造鑑真和上坐像を安置している。

☞ ここでは特に四天王像に注意したい。

【奈 良 公 園】

もともと自然の公園ではなく、明治27年から2年間ほどの間に造園された人工公園である。春日神社・興福寺・東大寺の境内と若草山・三笠山などの丘陵地を含み面積は528ha。

シカのむれ遊ぶ緑の芝生、あるいは原始林のおもかげを残す古樹、なだらかな丘陵などの自然美に

加えて丹精の妙をつくした歴史的建造物が多く、上記社寺のほか国立博物館・万葉植物園などの施設もあり、旅館・料理店の数も多い。

【春日大社】

春日野町に鎮座。藤原氏の氏神であり、各地にある春日神社の本祠である。本社の神域には、春日造の優雅な四字の本殿が並立し、仏教寺院の影響をうけて赤く塗られ、独自の造形になる春日鳥居や春日形石灯籠・釣灯籠などとともに、四囲の環境とみごとな調和をみせている。

☞ 春日大社を緑でつつむ山は三笠山とよばれ、古くから神の宿る山として信仰された。

天の原 ふりさけみれば 春日なる

三笠の山に 出でし月かも 阿部仲麻呂

【新薬師寺】

高畑町にある華嚴宗の寺。（香山寺・香薬師寺ともいわれる。）

春日若宮から南へナギの森を抜けると新薬師寺に出る。創建当初のものではないらしいが、天平時代建立の本堂には一木造の本尊薬師如来坐像が安置され、その円壇の周囲には石淵寺から移したと伝えられる天平期の代表作、十二神将像が並び、特異な奉安形式として知られる。

☞ きびしい憤怒の形相をもつ伐折羅大将などよく観賞したい。

【興福寺】

登大路町にある法相宗の大本山。現存する堂のうち北円堂（国宝）・三重塔（国宝）は鎌倉時代のもので、東金堂（国宝）は室町時代に六度目の復興をみたものである。猿沢の池に影をおとす有名な五重塔も室町時代の再建で、約50mの高さは京都の東寺の塔につぎ、日本の現存塔婆中第二の高さを誇っている。

南円堂は江戸中期に再建された八角円堂であるが、鎌倉時代の不空羅索観音（国宝）を本尊とし法相六祖坐像を安置する。金堂は、江戸末期の仮建築で、藤原末期の四天王像などを安置する。

- ☞ 東金堂の北に国宝館がある。山田寺仏頭・阿修羅像・世親無着像・金剛力士像など、白鳳期から鎌倉期にかけての日本美術史上の名作が集められており、ぜひ拝観したい。

【薬師寺】

天武天皇が皇后の病気平癒を祈願して薬師如来像をつくり、一寺を建立しようと発願したのが起源となり、680年に高市郡木殿に建立されたが、718年に平城宮（現地）に移転され本薬師寺と呼ぶことになった。形式は、金堂前左右に塔を配する薬師寺式伽藍配置である。国宝としては東塔、金銅薬師三尊像・仏足石及び足跡歌碑など九種類がある。宗派は法相宗である。

- ☞ 現在本堂建設のため、三重塔には足場がつくられ、落ちついた雰囲気はない。

【唐招提寺】

「天平のいらか」などと評されるこの寺は鑑真が公職を退いた後に新田部親王の旧地を賜って開き、集まった学僧に戒律を講じたといわれ、759年8月1日に開かれた。本尊の『舎那仏坐像』は脱活乾漆造りで高さが約3m70cmで光背には千体仏が並んでいる。これらは三千蓮華蔵界をあらわしたものであるが、現在光背の化仏の数は864本にへってしまっている。宗派は律宗にあたり総本山である。

- ☞ 天平期の代表的建築である。列柱方式を取り入れた雄大な建築の美しさを味わおう。講堂は平城宮の朝集殿を移したものであり、貴重な存在である。

【法隆寺】

この寺は聖徳太子が父である用明天皇のために建立したものだといわれる。日本最古の木造建築であり、本尊は薬師如来である。薬師如来は大乗仏教諸仏の一つで、薬師とはサンスクリットのバイシジャジュヤグル（医薬の師）のことを示し、薬師如来を本尊として息災などのために修する秘法を薬師法という。薬師寺の場合と同じである。宗派は聖徳宗総本山にあたる。国宝は西院、東院あわせて三十四種ほどがある。

- ☞ エンタシス、ㄢ字崩しの勾欄、人字形割束、雲形肘木などの建築様式、釈迦三尊・百済観音

などの飛鳥仏を注意してみよう。

【中 宮 寺】

607年に聖徳太子が母の穴穂部間人女王の菩提のために宮室を寺として改めたものである。

国宝は木造菩薩半跏思惟像と天寿国繡帳残欠などがあるが、現在の建物はほとんどが江戸時代以後のものである。宗派は始め法相宗であったが、後に真言宗となり現在は聖徳宗である。

また、この寺は尼寺である。

☞ 半跏思惟像（弥勒菩薩像）に注意したい。

【法 起 寺】

この寺は聖徳太子の遺志をついでその子の山背大兄王が638年に岡本宮を改めて寺としたもので、国宝としては三重塔、重要文化財として金剛菩薩立像がある。宗派は聖徳宗にあたる。

☞ 伽藍配置は法隆寺の逆であるが、建築様式は共通点が多い。

【法 輪 寺】

推古天皇の時代に聖徳太子の遺命をついで、子の山背大兄王が建立したものであり、国宝はなく、重要文化財として木造薬師如来坐像など八種類がまつられており、本尊は木造薬師如来坐像（法隆寺参照）である。宗派は聖徳宗で本山にあたる。

【不 退 寺】

奈良市法蓮にある。この地は平城天皇が皇位を譲ってから後の宮であったと伝えられ、同天皇の皇子阿保親王、その子在原業平がここにいて、847年業平が勅命によってこれを寺として、寺号を不退転法輪寺あるいは在原寺と称したと伝えられている。また一説には滋野貞主の家を寺として慈恩寺と

称していたのを移したものともいう。現在は本堂・南門・多宝塔をわずかに残すのみである

- ☞ この近所には海竜王寺がある。また石上宅嗣の創立になる私立図書館・芸亭もこの辺にあったといわれる。

【法 華 寺】

法華寺は光明皇后の創建で、大和の国分尼寺として奈良時代には東大寺と並んだ大きい寺であったが、後に衰え、今の金堂は桃山時代に豊臣氏によって再建されたものである。

本尊十一面観音は平安時代初期の木彫で、貞観彫刻の傑作の一つとして誠にこの尼寺にふさわしい。これは美貌で名高い光明皇后をモデルとしたといわれ、そのうるわしさには魅せられる。静寂な尼寺である。

- ☞ 本堂の裏股に時代の特色が認められ、勾欄擬宝珠には再建の由来が書かれている。なお、庭園は遠州流の手法がとり入れられ、大和の代表的庭園である。

【平 城 宮 跡】

法華寺を出て更に西に進むと、奈良時代七十余年の皇居のあとがある。今は国に買い上げられ、保存がなされることとなった。

奈良国立文化財研究所によって数千点におよぶ遺物が発掘されている。この地域は近鉄線の車窓からも見ることができる。これらの土壇は、かつて左右に整然と並んだ十二堂及び朝集殿などの昔日のかすかな面影を止めるもので、私たちに懐旧の情をおこさせる。

- ☞ 大極殿の跡の土壇に立って奈良の盛時をしのんでみよう。

「青丹よし 奈良の都はさく花の

勾うがごとく 今はさかりなり」

【西 大 寺】

西大寺とはもちろん東大寺に相對する称号である。称徳天皇が内紛をはらむ奈良朝廷の威信を回復

するために、東大寺に対して天平神護元年（765）に創設した。寺地は31町を占め、高さ約45mの東西両塔など数十の堂塔舎屋が配置され、女帝は曲水の宴を張られた。しかし平安時代からたびたびの火事で焼け、いまはその豪華なおもかげはなく印象にはむしろ悲哀感がある。それは基壇や礎石がいろいろのこっているからだろう。

【秋 篠 寺】

西大寺から北方へ約一キロ歩くと、技芸天という仏像で有名な秋篠寺がある。この寺は光仁天皇・桓武天皇の本願、すなわち奈良時代の末期に建てられたものであるが、その後火災にあい、今はわずかに本堂（旧伽藍の講堂を鎌倉初期に大修理）と、その中に安置されている仏像に昔のおもかげを残すだけである。技芸天は頭部が乾漆で天平時代、体は木造で鎌倉時代。やさしい顔立ちも、体のこなしもみごとである。静かなふんい気に包まれたこの寺は、奈良朝末期の世相を反映するかのような哀調をただよわせている。

☞ 技芸天は北地先生激賞の仏像である。乞観賞

【室 生 寺】

奈良県宇陀郡室生村にある真言宗室生派の大本山。奈良末期から平安初期にかけて興福寺の賢璟が開創したといわれ、当時祈雨の神の室生竜穴神の別当神宮寺であった。天長年間（824～834）空海によって金堂・五重塔などの堂塔が整備され、のち慈尊院堅慧が堂宇を増築した。金堂・五重塔はともに国宝となっている。他の国宝としては釈迦如来・十一面観音・本堂・本尊の弥勒菩薩立像と釈迦如来座像があり、そのほか多くの寺宝を蔵する。

☞ 大陸風の天平期寺院と違い国風化の傾向がみられるがどこにそれが表われているか注意しよう。また密教の影響を受けた仏像の特徴を観察しよう。

【長 谷 寺】

新義真言宗豊山派総本山。奈良県桜井市初瀬町にあり、正しくは「ちょうこく寺」というが一般に

「はせ寺」と通称されている。旧名豊山寺又は泊瀬寺といい、西国三十三所観音霊場第八番札所。本尊の十一面観音像は約八メートルで東大寺の仏師良学の天文年間の作。多宝塔内千仏像の法華説相図銅版（国宝）は白鳳彫刻である。仁王門から山腹を登る石段の両側にボタンを植え、昔からボタンの名所で有名である。

- ☞ 初瀬街道は大和・伊賀・伊勢を結ぶ重要な路であり、この街道から長谷寺まで門前町として発達し、庶民の信仰を集めた。平安朝文学にも長谷寺詣の様子がえがかれている。

【円成寺】

八世紀のなかばに唐の僧、虚淹和尚が建てた忍辱施寺が起こりて、のち改名された。白山堂、春日堂は国宝でともに一間社、春日造の鎌倉時代の古建築。また、楼門、木造四天王像、同阿弥陀如来坐像などの重要文化財なども置かれている。庭園（県指定名勝）には細長い池がマツ林のなかにしずまっているが、これは平安時代の中ごろ築造され、そのころから鎌倉時代にかけて貴族住宅に流行した寝殿造の典型的な配置を残すものといわれる。

- ☞ 本堂内には運慶の青年期の作である大日如来像がある。

【浄瑠璃寺】

真言律宗。京都府相楽郡加茂町にあり、九体寺、九品寺などとも称する。天平初年に行基が創建し、もと薬師如来を本尊とした。現在は本堂（国宝）に九体の阿弥陀如来座像を安置するが、これは九体阿弥陀の唯一の遺品である。四天王像（国宝）は平安朝代後期の木造で表情がやさしいのが特徴。吉祥天立像（重文）鎌倉時代初期の木造で高さ90センチ。三重塔（国宝）平安後期の様式を示し、内部に装飾画が残されている。

- ☞ 静かな浄土庭園に立つ三重塔、本堂はほんとうに極楽浄土を思わせる雰囲気である。

【岩船寺】

京都府相楽郡加茂町岩船にあり、真言律宗に属する。729（天平1）聖武天皇の勅願により、行基

が阿弥陀堂を建立したのはじまり、弘仁年間（810～824）智泉が灌頂堂・報恩院などを建てて岩船寺と名づけた。1221（承久三）年と1311（応長一）年に兵火にかかって衰微したが、寛永年間（1624～44）に修造して現在に至り、鎌倉時代の三重塔・十三重石塔・石造五輪塔が残る。本尊阿弥陀如来（丈六像）と普賢菩薩は飛鳥時代初期の作である。

- ☞ 門前に野菜・豆・漬物などの無人販売スタンドがあり大和のおおらかさのイメージを強める。
境内での思索もまた楽しい。

【山の辺の道】

上代には、大和盆地の東に連なる春日山・高円山・三輪山の美しい山なみにそって、そのすぐ山麓を、三輪から石上布留を過ぎ、奈良の春日へ通ずる古い道があった。いわば上代の文化地帯をつづる主要な道路で、これが“山の辺の道”と呼ばれるものである。その後時代の変遷とともに次第に用いられなくなり、北半はほとんどその跡をたどり難くなっているが、南半の三輪山麓から布留付近までの間は、よく昔の道の姿をとどめて、上代文化の跡をしのぶことができる。三輪山麓の金屋はこの道の起点で、ここから大神神社を経て柳本までの間は、中世以後伊勢参りの近道として用いられ、また繞道祭の御神火道となっていたため、よく昔の姿を残している。茅原・檜原からさらに北へ進むと、景行天皇陵、またその北に崇神天皇陵があり、その前の道こそ御陵名に示されている通り“山の辺の道”であることは明らかである。

- ☞ 大和造の家・環濠集落などに注意し、大和の人々の生活をさぐる。

【石上神宮】（布留社）

祭神：布都御魂大神 国宝：拝殿・摂社出雲建神社拝殿・七支刀 重文：楼門・色色威腹巻・鉄盾二枚・神宮禁足地出土品（勾玉類他）

本殿は近世の建築であるが、拝殿は鎌倉時代の建築（社伝によれば白河天皇・永保元年の造営）で、桁行七間・梁間四間・一重入母屋造・向拝一間・ひわだぶき・文明二年修理の記録がある。京都の宇治上神社拝殿とともに、最も古いものの一つで外観が仏堂風な点が注目される。また摂社出雲建雄神社の拝殿は桁行五間・梁間一間・一重切妻造・ひわだぶきである。もと永久寺鎮守の住吉神社拝殿を

移したもので、住宅風の外観と中央の唐破風の意匠などがすぐれている。社宝中には、七支刀（ななさやのたち）・勾玉（まがたま）類・色色威腹巻・古鏡・鉄鏃・鉄盾・鉄鉾などがあるが、特に七支刀は朝鮮半島との交渉を物語る貴重なもので、国宝になっている。

☞ この神社はもと物部氏の氏神であった。

【大神神社】（おおみわ）

祭神：大物主命（おおものぬしのみこと） 重文：拝殿・摂社大直禰子神社社殿・三ツ鳥居・紙本墨書周書卷第十九・朱漆金銅装楯二枚

日本最古の大社で延喜式所載の名神大社。古くは大神大物主神社（おおむちおおもののぬし）といい、また三輪明神ともいい、大和一ノ宮としてあがめられている。背後の三輪山（三諸山「みむろ」）が神体で、別に神殿はなく、正面に鳥居を立て、その前に拝殿があるばかりである。この鳥居は三輪鳥居といって特殊の形式で、明神鳥居の左右に小形の鳥居を組みあわせて中央に扉がある。

拝殿は、桁行九間・梁間四間・単層・切妻造りで寛永四年の造営である。古くから民間では醸酒の神としてあがめ、昔の酒屋が店先に杉の葉を束ねて掲げたのは、この神社の信仰に由来するという。摂社大直禰子神社（若宮社）は桁行五間・単層入母屋造・檜皮ぶきで鎌倉時代の建築である。

【飛鳥寺】（安居院「あんごいん」）

重文：銅造釈迦如来坐像

蘇我馬子が、排仏をとなえた物部守屋を倒してから真神原に仏寺 立の工を起こした。推古天皇の四年十一月これが落成を見、法興寺と呼んだが、またこの地が飛鳥の地であるところから飛鳥寺ともいい、さらに元興寺ともいった。わが国最初の僧寺である。ついで同14年聖徳太子は仏師鞍作止利に銅造釈迦如来像を造らせて金堂に安置した。これが飛鳥大仏で当時高句麗の大興王は本尊のために黄金300両を贈ったといわれる。この仏体は各部とも破損がはなはだしく、補修も不完全であるが、わが国で造られた仏像の遺品のうち最も古いものといわれる。顔や手の一部に止利仏師の特色がのこっている。

この法興寺の完成は当時国家的な大事業で「法興」の私年号は、このとき行なわれたものである。平城遷都後の養老2年、法興寺は平城京に移されて新元興寺となり、旧地にあるものを本元興寺と呼んだ。中世以降しばしば火災にかかり、堂宇はことごとく焼失して、今はわずかに飛鳥大仏といわれる安居院が残っているばかりである。ここは聖徳太子が恵慈・恵聡の両僧を安居（仏教用語で、僧徒が旧4月16日から90日間籠居して修業すること）させたところでその名があり、もとは本元興寺の1僧堂であったという。

- ☞ この寺は中大兄皇子が、大化の改新の折、蘇我氏との戦いにそなえてたてこもった所といわれる。寺の背後には蘇我入鹿の墓がある。

【石舞台古墳】

高市小学校の近くに巨石を積み上げた古墳があり、発掘の結果、飛鳥時代の上円下方墳であることが明らかになった。もとはこの巨石群をおおう封土があって、周囲に空壕と外堤をめぐらす壮大な古墳であった。羨道は11.5m・玄室は奥行7.5m・幅3.5m・高さ4.7mという大きなものである。このあたりは島ノ庄と呼ばれ島の大官蘇我馬子の荘園があったことから、馬子の墓ではないかと推定されている。

【豊浦寺跡】

このあたりは、推古天皇の豊浦宮や、小墾田宮のあったところと伝えられる。

欽明天皇の13年に百済から仏像を經論と共に献納されたが、崇仏の可否が決まらず、これを蘇我稻目に賜った。稻目がわが家を寺としてまつたのがこの寺である。いま塔婆の心礎とみられる礎石が1個あり、その1隅に向原（むくはら）寺（広嚴寺）がある。また、寺のかたわらに物部尾輿らが仏像を捨てたという難波堀江がある。

【三千院】

大原の山奥は汚れの無い浄土を欣求する人々が遁世する念仏の聖地であった。大原バス停より右へ

の登り道が、三千院への参道である。入口の「魚山」の石標を見て、桜の巨木を縫って登ると、15分程で三千院の石垣の下に出る。院内の往生極楽院は単層入母屋造りこけら葺で、その壁や、舟底天井には、三千院の壁画がうす黒く残っており、柔和な阿弥陀三尊座像が安置されている。

- ☞ 三尊像に対していると、静寂な庭園とあいまって、極楽浄土に生まれ変わった錯覚をおこすほどである。

【寂 光 院】

壇ノ浦で入水して助けられた建礼門院は、出家し、この地に隠棲して一生を終った。石段を上って行くと、草生の谷奥に、そのたたずまいが現われる。「峯に木伝うましらの声、しずの妻木の斧の音」のかすかにもれる幽すい閑寂の仏境である。「今や夢昔や夢とたどられていかに思へどうつつとぞなき」（建礼門院）ありし昔が偲ばれ胸にしみるものがある。境内に苑池書院の上手に建礼門院陵などがある。

- ☞ 華やかな都を離れた大原の里で、ひたすら仏の慈悲にすがってうら若き一生を終えた建礼門院の心がしのばれる。

【曼 殊 院】

市バス一乗寺停留所を降りて東に登れば、「宮本吉岡決闘之地」の石碑がある。しばらく歩いて左に折れると閑静な道に出、比叡山を右前方に見ながら歩ける。T字路を右に右にと行くと曼殊院の参道である。重要文化財の小書院、八窓茶屋、名勝に指定された庭園、国宝である黄不動、色絶の古今集など、見るものは多い。この寺は桂離宮を営んだ八条宮智仁親王の子、良尚法親王が建てたもので法親王が集めた古美術も多い。

- ☞ 30分毎の開門なので注意する事と、“見学”ではなく“拝観”と言う事も注意して欲しい。

【詩 仙 堂】

江戸時代初期の詩人、石山丈山の隠棲した跡で、狩野探幽筆の支那三十六歌仙像を、室内の四方の

壁に掲げたことから詩仙堂と名づけられた。ほぼ完全に当時の姿を残している詩仙の間、さるすべりの大木、白砂を配した庭園は、意匠すぐれ、添水のある庭として有名である。気持ちを静めて、その音を味わうと同時に、江戸時代の隠者の生活を振り返って考えたい。朝9時より午後5時まで、交通は京福－乗寺駅より歩いて15分。

【鞍馬寺】

鞍馬寺は奈良時代の末に建てられ、のち毘沙門天を本尊とする寺となった。「鞍馬天狗」「源氏物語」で名高く、昔から平安京北方の守護として崇敬が厚かった。現在でも正月の初寅には京の人が鞍馬寺に詣ることになっており、6月の竹伐り式、10月の火祭りは有名である。

- ☞ 枕草子に近くて遠きものは「鞍馬のつづらおりという道」とある坂をのぼりたい。奥の院への老杉の道はまさに「くらま」であり、牛若丸が天狗に武芸を習ったという話に実感がわく。

【円通寺】

京都バス円通寺停留所からしばらく登ると道は二つに分かれるが、どちらも峠のところでおちあう。右の道の方が展望が良い。峠には馬頭観音のお堂がある。少し下るとアスファルト道になり、右への道の左が寺であり、バス停より20分程である。御水尾上皇の御殿の跡に造られ、庭園は借景式庭園の代表的なもので、「王者の庭」にふさわしい。杉木立の間隙から、絶妙な姿の比叡山が見えて、感慨深いものという。

- ☞ 大自然の景観を、そのままに取り入れた日本独自の借景の技法を味わいたい。

【大徳寺】

大徳寺は一休禅師ゆかりの地として名高く、大仙院をはじめ数々の名庭をもつ塔頭（別院）が多く、拝観自由のところも拝観拒否のところもある、また、大徳寺はお茶との結びつきも深く、茶趣味の人には見落とせないものになっているようである。そして、変わった味のする大徳寺納豆というものがあり、これは大仙院で分けてもらえる。

- ☞ 大山院の石庭は小さな庭に深山幽谷あらわし、大河となって大海にそそぐ有様を表現している。「三万里程を尺寸に縮む」という禅宗的発想から作庭されている。三門（金毛閣）には千利休の木像が安置されている。

【金 閣 寺】

足利義満がたてたもので正しくは鹿苑寺という。三島由紀夫の小説にもなったように、昭和25年には焼失したが、昭和30年に再建された。この寺は庭園とよく調和し、鏡湖池に影を落とした姿はあまりにも有名である。また、庭園も室町時代の代表的な浄土庭園である。付近には大徳寺・竜安寺・妙心寺・仁和寺などがあり、東山とともに京都の代表的観光ルートとなっている。

- ☞ 北山文化を象徴する建築である。寝殿造りと禅宗様式を結びつけ林泉に調和した美しい姿をしている。銀閣と比較してみよう。

【竜 安 寺】

洛西の入口ともいふべきところにあり、石の庭で名高い。石庭は方丈の南側にあり、長方形の庭内にあるものは白砂と石だけであるが、それらが、人によっていろいろに解釈され、禅味あふれる枯山水の名園である。作者は相阿弥といわれているが諸説がある。また、石庭の他に鏡容池・竜安寺垣などがある。

- ☞ 竜安寺裏庭には「吾唯知足」のつくばいがあり、五山文学を生み出した禅僧の知恵に感心するであろう。

【京 都 大 学】

明治30年6月設立で、現在9学部と教養部に分かれ、東京大学と共にわが国の国立大学の好一対である。法・経・文・教及び理学部一部と教養部は、吉田山の西麓に、工・医・薬の三学部は市電通を隔ててその西に、農学部及び理学部の一部とグラウンドは市電銀閣寺線「農学部前」の北にある。北部構内の理学部附属植物園の一角にノーベル賞受賞の湯川記念館がある。

- ☞ 「紅もゆる岡の花，黄緑におう岸の色，都の春にうそぶけば，月こそかかれ吉田山」と歌われた吉田山に登り，京都大学の雰囲気などをかぎとってこよう。

【銀 閣 寺】

文明14年，足利八代将軍によって，建てられたこの銀閣寺は，一名慈照寺と呼ばれ，北山の金閣寺に対比して，その美しさをうたわれている。銀閣は，上下二層から成り，上層を潮音閣，初層を心空殿といい，すべて，優雅清淡で，書院造と禅宗様式（唐様）折衷様式をなし，東山時代を代表する唯一の建築である。庭園をはさんで銀閣に相對しているのが，東求堂で，同仁斎と呼ぶ茶室があり，わが国四畳半茶室の起源と言われて，有名である。

- ☞ 金閣と比較し，北山文化と東山文化の相違について考えよう。

【法 然 院】

法然上人の草庵跡にあたり，延宝8（1680）年，知恩院の心阿万無が堂を建てて再興，現在の姿にした。木々に囲まれた静寂な環境は深山を思わせるものがあり，庭の砂盛など浄土宗というよりも禅寺のムードを感じさせる，土佐光信の描いた襖絵をはじめ屏風など絵画にすぐれたものが多い。また本尊阿弥陀如来は恵心の作であり，方丈は桃山御殿の遺構を移した建築である。

- ☞ 境内には谷崎潤一郎の墓がある。

【永 観 堂】

清和天皇の勅願で斉衡2（855）年，空海の弟子真紹が開創したという。中興開山の永観が入って以来永観堂と呼ばれるようになり，近世に入り豊臣秀吉・徳川家康の保護を受けて寺運が盛んになった。首を横に向けた本堂の見返り阿弥陀如来は珍しい仏像である。山越阿弥陀如来図掛幅は恵心僧都の作と伝える国宝であり，土佐光信・狩野元信などの巨匠の絵や，狩野永徳，長谷川等伯の作の方丈の襖絵がある。

【南 禅 寺】

亀山上皇が大明国師に帰依し、離宮を贈って寺にしたのが起源である。二度の火災の後に再建され、盛んな時には塔頭・子院が六十二院もあったが、今は、南禅院、天授庵、帰雲院など十一院があるのみであるが、寺院は広大で、幽静閑寂な場所を占めており、山内には古代ローマの水道を思わせるアーチ形の疎水橋が通じている。境内には、湯どうふの店があり、昆布を底にひいた土鍋の中に無雑作に入っている湯どうふは、キメがこまかく、枯淡の味わいがある。

- ☞ 方丈前の庭園は白砂をしきつめた枯山水。内部には狩野永徳・探幽の障壁画がある。山門に登り、「絶景かな。」とやるのも一興。また、金地院の庭園は小堀遠州の作になり、鶴・亀島を配して大海をあらわした枯山水。書院襖絵は、長谷川等伯筆といわれる。

【青 蓮 院】

延暦寺三門跡の一つで、一般に栗田口御所と呼ばれている。天養元年、行玄大僧正が開いたもので、歴代法親王が住持となり、青蓮院宮と称えた。鎌倉初期に慈円が住持となって寺はますます盛んになった。寺には書画が多く、特に不動明王二童子像は青不動といわれ、高野山の赤不動、三井寺の黄不動とともに有名。そして庭園も、名園として名高い。

- ☞ この寺院の門主からでた書道の流派を青蓮院流といい、江戸時代の御家流のもとになった。

【知 恩 院】

宗祖法然が亡くなった所で、東山三十六峰のひとつ、華頂山の西麓にある。現在の堂守は多く、寛永10年、徳川家光による建立で三門、御影堂、集会堂、経蔵、阿弥陀堂、唐門、大方丈、小方丈、鐘楼などが備わっている。三門は、五門三戸の楼門で、元和5年徳川秀忠が建てたもの。わが国の三門中最も大きく立派である。楼上の鏡天井には極彩色の雲竜と天人、枡組には 彩色を施し、壁には極彩色の麒麟や波に怪獣が描いてある。浄土宗の総本山として、全国から信徒があつまる。

- ☞ 壮大な寺域、城郭に似た石垣は、徳川氏が有事の際に城として利用する計画であったことを示しているという説がある。

【八 坂 神 社】

古くは祇園感神院、祇園社、祇園天神、牛頭天王ともいったが、明治以後八坂神社となった。俗に「祇園さん」と呼んで、大衆の信仰が厚い。神苑は東山の麓にあり祇園の花街に接し、後ろに円山公園を負い、東山名勝の中心をなしている。

- ☞ この神社の祭礼は毎年 7 月 17 日から 24 日まで行なわれる祇園祭で、山鉦が祇園ばやしを奏しながら町をねり歩き、京都の夏の一大行事となっている。この辺には高級料亭と共に、大資産家の邸宅が多い。

【清 水 寺】

観音の霊場であり、また「清水の舞台」で知られている。寺域は東山の中腹、風景絶佳の地を占め、国宝の本堂をはじめ西門、鐘楼、三重塔、経堂、開山堂、地主神社、釈迦堂、阿弥陀堂、奥の院や住房成就院などが散在している。舞台前面は、かえでの名所である。

- ☞ 本堂と奥の院には、近世の大商人角倉や末吉の奉納図が掲げられ、当時の海外貿易のありさまをうかがうことができる。

【六波羅蜜寺】

初めこの地に小さな建物があって地藏菩薩を安置し、里名に因んで六波羅蜜寺と呼んでいた。村上天皇の天暦 5 年、京畿地方に伝染病が流行したので、空也上人が一面観音を刻んで病退散の祈念をこらし、四方に浄土の教えを広めてこの寺を再興、西光寺と呼んだ。

- ☞ この寺にある運慶の子康勝の作という空也上人立像は粗衣をまとい、鉦を打ち、念仏を唱えて各地を遍歴した空也のおもかげを生き生きと表現した傑作で、鎌倉彫刻の写実精神をよく示している。一見の価値がある。

【智 積 院】

もと豊臣秀吉がその子棄丸の菩提のために建てた祥雲寺がその後一時廃絶していたのを紀州根来

智積院を移して再興したものという。唐門，大書院，開山堂，鐘楼，大師堂，講堂，金堂，その他がある。大書院と寝殿の襖面十面は絢爛豪華な桃山時代芸術の料で，京都に多くある寺院の襖絵中でも豪華で美しいことで有名である。

- ☞ 長谷川等伯とその子久蔵の筆になる「桜楓図」，「松草花萩図」はぜひ見たい。書院東側の庭園は静かな情趣がただよっている。

【三十三間堂】

一体の観音は三十三種の観音に化身するという伝説から，三十三間堂の仏の数は三万三千三十三体といわれている。この内，本尊の木造千手千眼観音座像一体と木造二十八部衆立像二十八体は大仏師湛慶，小仏師康円の作である。木像二十八部衆は堂の背面廊下に並んでおり，体の均衡配置がきわめてよく，刀法も雄渾堅実で各体の形相が変化に富み，当代彫刻中の傑作である。なかでも南北両端にある風神，雷神像は有名である。

- ☞ この寺でもう一つ有名なのは「通し矢」である。永保8年から，弓の名手が堂の長さと同じ弓の力を競い，優勝者の額が堂内にかかげられた。

【広 隆 寺】

この寺には，俗に赤堂と呼ばれる講堂，桂宮院本堂，太子堂，仁王門などがある。

桂宮院本堂は，単層檜皮葺（ひわだぶき），鎌倉時代に建築された八角円堂である。堂前にある石燈籠は，太秦形といわれ名高い。霊宝殿には，多くの仏像・絵画類が陳列されている。そのうち最も有名なのは二体の弥勒菩薩半跏像である。

- ☞ この地はもと「うずまさ」といい大陸の帰化人秦氏の繁栄した所で，広隆寺も秦氏の氏寺であった。木造弥勒菩薩像は飛鳥期の傑作であり，これを見れば広隆寺をおとずれる目的は達せられたといってよい。

【妙 心 寺】

清原左大臣の別荘があったところで、後に花園天皇の離宮となった。足利義満の代になって寺領を奪われ、応仁の乱で焼失するなど災難が続いたが戦国から徳川時代にかけて大名の保護のもとに復興した。本坊鐘楼内の鐘は文武天皇2（698）年にできた我国最古の銅鐘で国宝である。建物の多くは天正から慶長、明暦にかけて再興されたもので、江戸時代初期の面影をよくとどめている。本坊及び塔頭退蔵院、桂春院の庭も個性的である。

【仁 和 寺】

昔は寺域が8 Km四方にわたり、堂塔坊舎が並び、塔頭子院が60余もあったというが、応仁・文明の兵火にすべて焼失した。その後寛永14年（1637）御所の建物を移しやや旧観に復したが、明治20年また火災にかかり多くの堂塔を失った。境内は仁和寺御所跡として史跡に指定されている。現在ある主な建物は仁王門・金堂・御影堂・五重塔などである。

- ☞ 御室仁和寺といえば徒然草を思いですが、兼好法師が住んでいたのはこの寺の南にある双が岡のふもとである。

【高 山 寺】

この寺は、初め天台宗であったが、建永年間（1206～07）明恵（みょうえ）上人が再興して華嚴宗の道場となり、堂塔を建て高山寺と改めてから有名になった。明恵上人は初めて茶をここに植え、鎌倉時代以後一般にも茶の栽培が盛んになった。いまでも高山寺の裏山には茶園があり、毎年11月8日に献茶式が行なわれている。

- ☞ 上人の御影堂は石水院といい鎌倉時代の寝殿造のおもかげをとどめている。ここで茶を一服したあと清滝川をへだてる向いの山を眺めるのもよい。

【神 護 寺】

久しく荒れはてていたのを、寿永元年（1182）文覚（もんがく）上人が再興して非常に盛大にした。

境内には仁王門・和気清麻呂公霊廟・明王堂・金堂・天王堂・多宝塔・毘沙門堂などがある。金堂前の石段下から道を右方西にとり、前後左右から頭上をおおう楓の老木の下をゆくと、地藏院に着く。ここから急に展望がひらけ、清滝川の溪を眼下に美しいながめが展開する。

- ☞ この寺は真言密教の寺院であり、本尊薬師如来立像は貞観彫刻の傑作の一つである。本堂裏山の多宝塔内の五大虚空蔵菩薩座像もぜひ見ておきたい。

【大 覚 寺】

現在の主な諸堂は御影堂・心経奉安殿・本堂・客殿・宸殿などである。

客殿には、古風な張台飾りがあり、そのかまちにある桐・竹・鳳凰の蒔絵は嵯峨蒔絵といって有名である。又、宸殿は、江戸時代の建築といわれ、中央の広間の奥には、金地に牡丹を極彩色で描いた山楽筆と伝えられる襖絵がある。その他柳松ノ間・紅梅ノ間などにも金地に濃彩の襖絵があり、桃山時代の豪華さがある。

- ☞ 大覚寺は皇室とのゆかりが深く南北朝合一の折後亀山天皇が北朝の後小松天皇に神器を譲り渡した所である。寺というより宮殿の趣があり大沢の池と共に嵯峨野に美観をそえている。

【清 涼 寺】

ここはもと嵯峨天皇の離宮のあった所で、皇子源融（みなもとのとおる）が山荘を設け棲霞観と名づけ、のちにこれを寺として棲霞寺と呼んだ。その後奈良東大寺の僧奝然（ちようねん）が宋から帰り、持ち帰った釈迦像を安置する寺を建てようとしたが、できあがらないうちに死んだので、弟子の盛算がその志をついで建てたのがこの五台山清凉寺である。境内に平安時代の石塔や鎌倉時代の宝箱印塔、奝然の墓などがある。

- ☞ 釈迦像は1.8 mの宋朝様式で「生身の釈迦像」として人々にあがめられた。

【化野念仏寺】

化野は小倉山東麓一帯の地名で、昔は死骸をすてて風葬したという。念仏寺は弘法大師がこの地に

葬られた死者の菩提を弔うために建てられ、のち法然上人が常行念仏の道場にしてから今の寺名に改められたと伝えられている。

- ☞ 境内にはこの付近から出土した多数の小石塔がぎっしりと並べられ壮観である。

誰とても 留るべきかは 化野の

草の葉毎に すぎる白鷺 西行

【祇王 寺】

大覚寺末の尼寺で、平清盛の侍女祇王が寵を失い、「萌出るも枯るるも同じ野辺の草 か秋にはあはで果つべき」と読んで尼になり、余生を送ったといわれる。境内に祇王・祇女・その母および仏御前（ほとけごぜん）の木像と墓とがある。また吉野朝の忠臣新田義貞の首塚もある。現在の庵主はもと名妓照葉の智照尼である。

- ☞ 平家物語の一節を読んで出かけると興味深いであろう。祇王寺にほど近く滝口入道遁世の場所といわれる滝口寺がある。

【二 尊 院】

本堂に本尊として釈迦・阿弥陀の二尊を安置してあるので二尊院の名がある。境内に鎌倉時代の石塔が3つあり、また三条西実隆、同公条墓、角倉了以父子墓、伊藤仁斎同東涯墓がある。

- ☞ 二尊院背後の小倉山中腹に藤原定家の小倉山荘跡がある。ここで百人一首を編纂したといわれる。

【落 柿 舎】

向井去来が住み、師の松尾芭蕉が逗留した落柿舎のあとは、この付近と考えられている。柿の古木にかこまれた現在の萱葺の小屋は後世のものである。二尊院への途中右側竹やぶの中に去来の墓がある。小さな鳥帽子型の自然石に、去来の二字を刻しただけのものである。

- ☞ 柿主や 梢は近き あらし山 去来

落柿舎を出、山陰本線の踏切りを渡り竹やぶの小道を行くと野宮にでる。ここは伊勢神宮に奉仕する内親王が潔斎のため3ケ年住むことになっていた所である。

【天 竜 寺】

境内は約6万 m^2 あり、松や柏がうっそうとして茂り、大方丈裏の庭は史跡・特別名勝になっている。また、大方丈の西南には後嵯峨・亀山両天皇の御陵がある。

この庭園は、夢窓国師の造園と伝えられ前庭と内庭の2つに分けられ、内庭は方丈の背後にある。中央の曹源池は作庭当時のもので、禅好みの宋元水墨風の趣味を取り入れた代表的名園である。

なお境内西山草堂の湯どうふは、嵯峨野の味覚として有名である。

- ☞ 足利尊氏が後醍醐天皇の菩提をとむらうために夢窓疎石を開山として創立した。この費用をえるため元到天竜寺船が派遣された。

【嵐 山】

嵐山は丹波の南から連なる山の一部で、標高わずか375 m に過ぎないが、京都地方では「らんざん」と呼んで親しまれている。北ろくは大堰川の清流に臨み小倉山(293 m)亀山に対し、昔から花の名所、紅葉の名所となっている。山中の戸難瀬野・豪商角倉了以のひらいた大悲閣・夢窓国師座禅石・香西又六古城跡・岩田山野猿遊園地などがある。また東麓には13もうでで名高い法輪寺がある。

- ☞ 大堰川の上流は保津川、下流は桂川、やがて鴨川と合し、宇治川にも合流して淀川となる。

【西 芳 寺】

夢窓国師がこの寺に入り、堂宇の再興とともに、造園(異説もある)したという。庭は溪間の静かな所に黄金池を堀り、池中に三つの島を築き、丘地には岩を配し、石をしき 樹木を多くして、地面には美しい緑苔が一面にしかれ、その間を回遊できるようになっている。苔の種類は約100種。しかしこの寺は、このごろ有名になりすぎ、庭内に入っても前後は延々と人の列で、林泉の美しさに足を止めるひまもない。「トコロテン式回遊庭園」とでも名づけようか。であるから、朝九時の開園をねらっ

で行ったらよいでしょう。

☞ 向上関をくぐり山腹を登ると開山堂の東側に豪壮な石組の枯山水がある。

【東 寺】

桓武天皇が平安京遷都の際、羅城門の左右に東西両寺を建てて京の鎮護とした。嵯峨天皇のとき空海に賜わって教王護国寺と名を改めた。応仁の乱、戦国時代を通じてひどく衰えたが、1641年以降、繁栄した。国宝五重塔は高さ56.4メートルと我国最高の塔で寛永18（1641）年徳川家光によって再建された。建造物が比較的新しいのに対し、彫刻・絵画・工芸などは平安初期以来の密教美術の名品を多く所蔵している。

【泉 湧 寺】

古くから、皇室の香華院として有名な寺で、本堂、釈迦堂、観音堂、舍利殿、開山堂、霊明殿などがある。寺のある所は天長年間空海が法輪寺を建てた所で、承元年間、月輪大師が堂宇を再興し、落成のとき清泉が湧き出したので、泉湧寺と改めたと伝える。四条天皇以来歴代天皇の山陵が寺内に多く設けられている。観音堂内の聖観音像は、揚貴妃観音とも呼ばれて名高い。

☞ 聖観音像は唐の玄宗皇帝が揚貴妃を弔うために、その姿に似せて作らせたという。秘仏であったが、昭和三十一年から公開されている。

【東 福 寺】

九条道家が九条家の氏寺にするため、奈良東大寺と興福寺の各一字を取って寺名とし、殿内に釈迦、観音、弥陀の巨像を安置し、建長7年落成式を行なった。それ以来、禅宗の大道場として京都五山の一つに列し、京都における最も有名な寺の一つである。明治14年火災にあったが、なお三門・東司・選仏堂・月華門などの唐様古建築がある。寺宝の聖一国師像・五百羅漢図・涅槃図・四十祖像などは、3月14日から3日間公開する。

☞ 東司（便所）三門東にある浴室は禅宗寺院の古い形式を伝えると同時に、いかに多くの僧侶

達が集まっていたかを知る貴重な建築である。三門は現在修築中である。

【万 福 寺】

宇治川の東の山すそには、万福寺がある。チーク材建築の大雄宝殿を中心に、三門、天王殿、法堂、東西万丈など一三棟の殿門を整然とつらね、諸堂門には多くの額や聯を掲げている。二一代まで明国、清国の帰化僧が歴住し、その人たちの名筆をまのあたりにすることができる。平くずしの勾欄、彫刻をほどこした台石、棟の中央に飾られた宝珠、トンネル形をなす黄檗天井、円窓などが異国的雰囲気をかもしだしており、これを訪れた人は、明の時代に詣でた思いにひたるであろう。

☞ 江戸時代に黄檗宗を伝え、万福寺を開いたのは隠元である。

【石清水八幡宮】

清和天皇の時代の貞観元年（八五九年）にまつられたもので、男山にあり、表参道の長い石段の途中に石清水といわれる湧水があることからこの名がついた。観光ブームの市内の社寺とは違い、静かで、東山、比叡山が見わたされ、足下には宇治川、桂川のうねりが光り、また山麓の竹やぶの美しさは、四季を通じてすばらしいものである。豊臣秀吉が明智光秀をやぶった山崎の合戦の古戦場も一望のもとにみわたせる。

☞ 山崎が戦略上の要地であったことが一見してわかるであろう。神社は外敵をしりぞける神威を持つ神をまつろうとしたもので、神殿は、壮麗の一語につきる。

【醍醐寺三宝院】

山科から醍醐を経て宇治に通ずる昔ながらの風情を残した道があるが、この街道を南に行くと下醍醐の南門がある。下醍醐にある五重塔は京都では最も古い建築である。その門を入って左に三宝院がある。院は醍醐寺の大塔頭で、寝殿造りの大書院、泉殿渡殿、車寄、護摩堂、庫裡、林泉いずれも桃山時代の粋をあらわし豪華を極めている。襖の画は狩野永徳の筆で特に著名である。また秀吉が指図してつくったといわれる庭園も見事である。そして秀吉は死の直前、ここで豪華な花見の宴を開いている。

【法 界 寺】

三宝院の前の宇治に通じる街道を更に南下すると日野になる。ここはもと日野家の所領で法界寺は日野一族が多く資を投じて建てたものである。この地はまた親鸞上人出生の地とも伝えられる。

阿弥陀堂は平等院鳳凰堂や大原の往生極楽院とならび称される浄土信仰の遺構である。内陣中央の円満で慈悲に富んだ阿弥陀如来像と共に極楽浄土の幻想をかきたてたものであろう。また法界寺の北、浄福寺址の東北、溪流の上に方丈石があり、鴨長明隠棲の地といわれている。

【平 等 院】

藤原頼道が別荘に阿弥陀堂を建て寺院にしたもので、現在は鳳凰堂（国宝）を残すのみである。鳳凰堂は仏師定朝の作と伝えられる阿弥陀如来坐像（国宝）を本尊とする阿弥陀堂であるが、両側に張り出した翼廊が鳳凰の飛び立つ姿を連想させるのでそう呼ばれる。

- ☞ もと阿弥陀堂正面に小御所があり、西面の扉を開き池を隔てて堂の円窓を通して本尊の顔を拝んだ。平安貴族の華やかな浄土信仰をしのばせる。天蓋・雲中供養仏・壁画・いづれも創建当時のもので、華麗な姿をとどめている。庭園はいわゆる浄土庭園の面影を残している。（拝観所要約40分，100 円）

【平 安 神 宮】

明治28年平安奠都千百年を記念して桓武天皇を祭って創建し、昭和13年平安京最後の孝明天皇を合わせ祭った。白砂をしきつめた庭に「大極殿」の丹塗りの柱が映えて美しい。大極殿の左右には回廊がならび、末端に「蒼竜」「白虎」の二樓を置く。神苑は広大な回遊式の庭園になっていて、東，中，西の3つにわかれて四季の風物がたのしめるが、とくにうす紅のシダレザクラは名高い。

【北 野 神 社】

この神社は、平安朝時代のすぐれた政治家・文学者であった菅原道真を祭神としている。天暦2年（949）今の所にはこらを営んでまつた。のち天徳3年（959），藤原師輔が社殿を造営した。

今の社殿は慶長12年（1607）豊臣秀頼が、片桐且元を普請奉行として造営したもので、本殿・拝殿の他に、中門・廻廊・透塀・後門などが備わっている。

北野天神は農業神でもある。境内には農業の発展を祈って奉納された牛の彫刻が数多くみられる。

【二 条 城】

徳川家康が上洛の際の宿舎として慶長7年に建設したものである。その後、一時拡張されたが、次第に縮小、火災にあうなどして、二之丸御殿（国宝）だけが残った。これは大広間、黒書院、白書院などの広間に分かれ、そこに描かれた襖絵は狩野探幽らの筆によるものである。この襖絵の相違をみるのもおもしろい。二之丸庭園（特別名勝）は小堀遠州らが作ったもので、どこからみても正面になるので「八陣の庭」と呼ばれる。この庭園内の散歩も楽しい。（見学所要約1時間、100円）

【東 本 願 寺】

建物はほとんど明治のものであるが、その大きさには目を見はらせるものがある。特に本堂ともいうべき大師堂は927畳敷の広大な広間があり、ここで多くの人々が参拝できる。奈良、平安時代の寺院の本堂が仏の安置場所で、参拝所のためのものでないことを考えると、浄土真宗の性格がうかがえる。

☞ 徳川家康は真宗の力を弱めるため本願寺を東西に分割したが、東本願寺の建築の巨大さは真宗教団の信仰の力を見せられる心地がする。（拝観所要約30分、志納）

【西 本 願 寺】

文禄元年（1592年）に秀吉から寺領を与えられ建立されたものである。表門をはいると、正面には寛永年間の御影堂、右手に宝暦年間の本堂の大建築が並ぶ。御影堂内には親鸞上人の座像、本堂内には本尊の阿弥陀像を安置し、共に真宗仏殿の典型的な伽藍である。この寺には桃山期の有名な飛雲閣、能舞台などの建築や、豪荘華麗な障壁画、欄間彫刻、庭園などの貴重な文化財がある。その他伏見城から移した大書院・唐門などがある。

グループ別編成と見学場所

班	氏 名	見 学 場 所		
		3月20日(月)	3月22日(水)	3月23日(木)
1	◎上田(A) 齊藤(A) 岡(B) 藤原(B) 依田(D)	法隆寺 中宮寺	銀閣 南禅寺 祇園 清水寺	竜安寺 渡月橋 苔寺
2	◎鈴木(A) 相沢(C) 磯(C) 市来(C)	浄瑠璃寺 春日大社 東大寺	二条城 二尊院 大覚寺 竜安寺 大徳寺 上賀茂神社	銀閣 法然院 南禅寺 泉涌寺
3	◎高橋(A) 立木(B) 野村(C) 吉田(E)	東大寺 春日大社 飛火野 新薬師寺	高山寺 神護寺 大覚寺 二尊院	寂光院 三千院
4	◎志村(A) 飯島(A) 楠川(A) 広岡(A) 岸上(D)	薬師寺 東大寺 興福寺	南禅寺 八坂神社 六波羅蜜寺 泉涌寺 東福寺	嵯峨野
5	◎伊地知(A) 井上(A) 相原(A) 伊東(A) 小島(A) 高田(亮)(A) 遠田(A) 福田(A) 竜(A)	春日山 春日大社	嵐山 妙心寺 京都タワー	三千院 寂光院
6	◎杉浦(A) 樋本(A) 三浦(A)	春日大社 春日山	苔寺 嵐山 金閣寺 銀閣 京都タワー	岩田山自然遊園地
7	◎石戸(A) 梅沢(A) 鈴木(A)	室生寺	三千院 寂光院	神護寺 高山寺 念仏寺 祇王寺 嵐山
8	◎野口(A) 上甲(A) 渡部(C) 岡本(D) 千葉(F) 松尾(F) 大石(F)	室生寺 長谷寺	嵐山	銀閣
9	◎高田(豊)(A) 久保田(A) 梅沢(和)(A) 中村(隆)(A)	東大寺 奈良公園	西本願寺 清水寺 円山公園	銀閣 三千院
10	◎栗原(A) 佐藤(H) 小松原(H)	東大寺 法隆寺 法起寺 薬師寺 唐招提寺	平安神宮 銀閣寺 金閣寺 本能寺 二条城	知恩院 八坂神社 円山公園 清水寺

班	氏 名	見 学 場 所		
		3月20日(月)	3月22日(水)	3月23日(木)
11	◎松樹(A) 湯山(G) 山崎(G) 中村(G)	浄瑠璃寺	苔寺 竜安寺 広隆寺	下鴨神社 植物園
12	◎中村 (E) (A) 田中(A) 山崎(B)	興福寺 若草山 春日大社	琵琶湖	大徳寺 妙心寺 竜安寺
13	◎奥羽(B) 伊達(B) 鈴木 (佳) (G) 小室(H)	法隆寺 中宮寺 法起寺 法輪寺	寂光院 三千院 勝林院 詩仙堂 曼殊院	神護寺 新京極
14	◎森(B) 伊藤(B) 紫田(B) 杉浦(B) 野田(B) 相川(B)	浄瑠璃寺 岩船寺	常照皇寺 高山寺	祇王寺 二尊院 落柿舎
15	◎江口(B) 旦尾(B) 西垣(B) 花岡(B)	山の辺の道	銀閣寺 竜安寺 妙心寺 大覚寺 嵯峨野	勧修寺 随心院 醍醐寺
16	◎竹内(B) 稲垣(B) 大野(B) 松平(B)	薬師寺 唐招提寺	嵯峨野	西芳寺 二条陣屋
17	◎高橋(B) 中村(B) 三川(B)	薬師寺 唐招提寺	広隆寺 仁和寺 竜安寺 金閣寺	南禅寺 永観堂 法然院 銀閣
18	◎甲(B) 浅原(D) 斉藤(D) 池上(E) 横田(E) 相川(F) 石田(F)	浄瑠璃寺 岩船寺	知恩院 祇王寺 仁和寺 竜安寺 智積院 青蓮院	寂光院 三千院 清水寺
19	◎金田(B) 安食(B) 小野(B) 久木元(B) 吉田(B)	興福寺 海竜王寺 法華寺	竜安寺 妙心寺 仁和寺 天竜寺 西芳寺	知恩院 八坂神社 円山公園 清水寺
20	◎坂川(C) 小島(B) 森井(B) 小林 (隆) (D) 角田(D) 井本 (D) 大谷(E) 吉安(E) 岩本 (G) 鈴木(G)	興福寺 国立博物館 万葉植物園 東大寺	大覚寺 落柿舎 祇王寺 念仏寺 二条陣屋	御所
21	◎中村(C) 苗代(B) 土橋(C)	若草山	三千院 寂光院 竜安寺 広隆寺	嵐山
22	◎横川(C) 石下(B) 早川(A)	法隆寺 中宮寺	金閣寺 竜安寺	鞍馬山

班	氏 名	見 学 場 所		
		3月20日(月)	3月22日(水)	3月23日(木)
22		唐招提寺	仁和寺 天竜寺	
23	◎加藤(淳)(C) 芥川(C) 足立(C) 川又(C) 吉村(C)	若草山 東大寺	平安神宮 八坂神社 知恩院 南禅寺	二条城 国際会議場
24	◎佐瀬(C) 青柳(E) 岩本(E) 金沢(E) 山田(匠)(E) 東島(E) 斉藤(H)	東大寺 興福寺	銀閣寺 竜安寺 天竜寺 嵐山	八坂神社 祇園
25	◎坂下(C) 八嶋(C) 高橋(D) 西尾(F) 大野(C)	興福寺 秋篠寺 西大寺	清水寺 八坂神社 青蓮院 南禅寺 銀閣寺 西芳寺	大覚寺 祇王寺 落柿舎 天竜寺 東寺
26	◎斉藤(C) 上原(C) 栗屋(C) 土屋(C) 松村(C) 福本(A)	香具山	天の橋立	竜安寺 金閣寺 西芳寺
27	◎今井(C) 川崎(C) 森田(C) 山本(C) 弓家田(C)	東大寺 三月堂	神護寺 高山寺 苔寺	三千院 寂光院
28	◎坂本(C) 比谷(A) 宮川(A)	秋篠寺 法華寺 不退寺	金閣寺 落柿舎 念仏寺 西芳寺	青蓮院 知恩院 清水寺
29	◎中久木(C) 三ノ輪(D) 飯田(F)	東大寺 法隆寺	天の橋立	三十三間堂 国立博物館
30	◎高城(C) 長野(C) 宮部(C) 若尾(C)	春日大社 東大寺	天の橋立	天竜寺 西芳寺 御所
31	◎萩原(C) 山下(C) 松下(F)	若草山	国際会議場 御所	八坂神社 嵐山
32	◎清水(C) 笹木(B) 平塚(B)	興福寺 秋篠寺 西大寺	寂光院 勝林院 三千院 詩仙堂	大覚寺 祇王寺 落柿舎 天竜寺
33	◎石井(D) 中村(D) 堀川(G) 松尾(G) 湯川(H)	室生寺 長谷寺	三千院 寂光院 円通寺	広隆寺 苔寺 天竜寺 嵯峨野
34	◎武居(D) 渡辺(康)(D) 木下(E) 間(E) 森田(G) 須賀(G) 長島(G)	唐招提寺 薬師寺	三十三間堂 清水寺 大原	嵯峨野 嵐山
35	◎半田(D) 林(D) 渡辺(浩)(D)	国立博物館 東大寺	清水寺 三十三間堂	二条城 金閣寺

班	氏 名	見 学 場 所		
		3月20日(月)	3月22日(水)	3月23日(木)
	馬場(E) 小林(H) (D)		東本願寺	
36	◎森(D) 峰村(D) 福島(B) 針ヶ谷(D) 永山(D) 黒田(D)	東大寺 若草山	金閣寺 広隆寺 嵐山	銀閣寺 清水寺
37	◎中江(D) 今津(C) 丸藤(C) 小原(E) 国井(H) 黒川(H) 西脇(H) 飯塚(A)	春日神社 東大寺	銀閣寺 平安神宮 清水寺 知恩院 六波羅蜜寺	金閣寺 嵐山
38	◎角谷(D) 加藤(E) 武安(E)	唐招提寺 薬師寺	三十三間堂 清水寺 大原	嵐山 嵯峨野
39	◎小久保(D) 村田(A) 山田(A) 森山(B) 大松沢(D) 田中(D)	慈光院 法隆寺	南禅寺 永観堂 法然院 清水寺 曼珠院	西芳寺
40	◎清水(D) 佐藤(B) 中江(B) 皆川(B) 米沢(B) 若月(B)	浄瑠璃寺	法然院 永観堂 南禅寺	六波羅蜜寺 三十三間堂 妙法院
41	◎坂本(D) 川島(C) 佐久間(C) 五十嵐(D)	法華寺 秋篠寺	金閣寺 念仏寺 落柿舎	青蓮院 知恩院
42	◎岡田(D) 長沢(E) 鈴木(輝)(F)	唐招提寺 薬師寺 中宮寺 法隆寺	銀閣寺 法然院 清水寺 永観堂 南禅寺	神護寺 西芳寺
43	◎青木(D) 永見(D) 深沢(D) 藤原(D)	万葉植物園 柳生街道	三千院 寂光院	清水寺 円山公園 青蓮院
44	◎有沢(D) 大野(F) 矢花(G)	浄瑠璃寺	法然院 永観堂 南禅寺	六波羅蜜寺 三十三間堂 妙法院
45	◎桑田(D) 小池(D) 蒔田(D) 藤井(D)	奈良公園	寂光院 三千院	竜安寺 広隆寺 嵯峨野 天竜寺
46	◎清水(E) 田沢(E) 手塚(E) 新津(E) 古田(E) 長倉(H)	興福寺 不退寺	嵐山 天竜寺 西芳寺 嵯峨野	南禅寺 知恩院 八坂神社
47	◎中川原(E) 東條(D) 三崎(D) 堀田(G)	新薬師寺 柳生街道	貴船神社 鞍馬寺	三千院 寂光院
48	◎富安(E) 佐藤(E) 山崎(E)	春日山	落柿舎 嵐山 苔寺	銀閣寺

班	氏 名	見 学 場 所		
		3月20日(月)	3月22日(水)	3月23日
49	◎岸田(E) 吉村(F) 大久保(G)	平城宮跡 佐紀楯列古墳	大徳寺 北野神社 竜安寺	苔寺 大覚寺
50	◎山田(知)(E) 鈴木(夢)(E) 寺林(E) 矢口(E)	東大寺	南禅寺 銀閣寺 平等院	清水寺 竜安寺
51	◎水沢(E) 仲田(C) 松岡(C) 渡辺(C)	船若寺	祿王寺 苔寺 八坂神社	二条城 本能寺
52	◎中野(E) 原田(A) 兵藤(A) 吉松(D) 藤田(G) 水戸野(F)	室生寺 長谷寺	苔寺 大沢池 金閣寺	平安神宮 比叡山
53	◎広野(E) 石田(E) 浜中(E) 溝口(E)	薬師寺 唐招提寺	詩仙堂 平等院	三十三間堂 西本願寺 竜安寺 銀閣寺
54	◎竹山(F) 有馬(F) 伊藤(F) 岩本(F) 渋谷(F)	不退寺 法華寺 西大寺 秋篠寺	西陣織物館 大徳寺 嵯峨野 苔寺	二条城
55	◎内田(F) 新(F) 杉田(健)(F) 巢山(F)	室生寺	苔寺 天竜寺 嵯峨野	寂光院 三千院
56	◎諸橋(F) 荒木(F) 小林(F) 広瀬(F) 荒井(E)	浄瑠璃寺 秋篠寺 法華寺	仁和寺 高山寺 苔寺 広隆寺	三千院 寂光院 詩仙堂 知恩院 清水寺
57	◎加藤(F) 大場(F) 杉田(伸)(F) 藤岡(F) 丸山(F) 名木田(F) 友光(F) 牧(F)	東大寺	三千院 寂光院 詩仙堂	竜安寺 銀閣寺
58	◎高城(G) 青野(E) 京田(E) 岩崎(F) 千原(H)	秋篠寺 法華寺 西大寺	竜安寺 広隆寺 嵯峨野	三千院 寂光院
59	◎古川(G) 水谷(E) 西巻(G)	飛鳥方面		竜安寺 苔寺 嵯峨野
60	◎丸田(G) 宇佐川(G) 小川(G) 島(G) 高品(G) 野呂(G) 宮田(G)	奈良公園	南禅寺 八坂神社 六波羅蜜寺 泉涌寺 東福寺	京都タワー 銀閣
61	◎小林(G) 窪木(G) 坂倉(G) 柴橋(G)	東大寺 薬師寺 興福寺	広隆寺 苔寺 金閣 嵯峨野	平安神宮 二条城 知恩院 東・西本願寺

班	氏 名	見 学 場 所		
		3月20日(月)	3月22日(水)	3月23日(木)
62	◎長谷部(G) 松永(B) 岡部(H) 原田(G) 北村(H)	浄瑠璃寺 岩船寺	嵐山 神護寺	銀閣寺 詩仙寺 曼珠院
63	◎塩村(G) 川田(D) 鈴木(直)(G) 中富(G) 細田(G) 松原(G) 木庭(H) 染野(H)	海竜王寺 法華寺 秋篠寺 西大寺	竜安寺 苔寺 嵯峨野 広隆寺	三千院 寂光院
64	◎西村(G) 高橋 (仁) (G) 田村(G) 野村(G) 松岡(G) 西川(F) 高森(B) 三宅(B) 上野(B)	東大寺 薬師寺 興福寺	伝統産業見学	大覚寺 嵯峨野 西芳寺 西本願寺
65	◎岡村(H) 安藤(H) 北島(H) 余吾(A)	法隆寺 中宮寺 唐招提寺	苔寺 広隆寺 竜安寺 仁和寺	二条城 三千院 寂光院
66	◎望月(H) 高尾(H) 高島(H) 塚本(H) 南雲(H)	長谷寺	鞍馬寺 大原	京都市内
67	◎上島(H) 加藤(A) 山下(H)	薬師寺 唐招提寺	六甲山	三千院 寂光院
68	◎原山(H) 大沢(H) 国崎(H) 田辺(H) 野口(H) 山本(H)	新薬師寺 柳生街道	鞍馬寺 貴船神社	三千院 寂光院
69	◎福島(H)荒井 (B) 小笠原(G)	笠置寺	三千院 寂光院	鞍馬寺 貴船神社
70	◎打田(H) 平沢(E) 山本(D) 刈間 (E)			
71	◎大西(H) 神沢(H) 後藤(H)	新薬師寺 柳生街道	鞍馬寺 貴船神社	三千院 寂光院
72	◎西(H) 市橋(A) 佐々木(H)	岩船寺 浄瑠璃寺	六甲山	三千院 寂光院
73	◎小川(H) 三木(F) 美野輪(E) 高橋 (重) (G)	奈良公園	六甲山	金閣寺
74	◎河村(H) 嶺(A) 中山(C)	浄瑠璃寺	善峰寺	大原 国際会議場
75	◎和賀(H) 木村(A) 安達(G) 石田(G)	東大寺	二条城 平安神宮 清水寺 三十三間堂	平等院 伏見桃山陵
76	◎岡本(F) 内田(A) 東(C) 吉原(C) 落合(F) 土橋(F) 鎌田(G) 杉浦(H) 高嶺(H) 藤森(H)	薬師寺 慈光院 法起寺 法輪寺 法隆寺	伝統産業見学	嵯峨野 天竜寺

班	氏 名	見 学 場 所		
		3 月 20 日(月)	3 月 22 日(水)	3 月 23 日(木)
77	◎鈴木(E) 稲員(A) 波木井(D) 相原(F) 塙(F) 吉田(H)	奈良公園	伝統産業見学	西芳寺 天竜寺
78	◎井上(H) 小瀬村(B) 鈴木(C) 浦部(E)	浄瑠璃寺	善峰寺	大原 国際会議場
79	◎杉原(F) 小穴(F) 森重(F) 森(F) 岩田(F) 鈴木(F) 美土路(H)	室生寺 長谷寺	銀閣 法然院 永観堂 南禅寺	清閑寺 清水寺 霊山観音
80	◎高野(H) 高原(H) 和賀(H)	法華寺 秋篠寺	勝持寺 善峰寺	等持院 広隆寺
81	◎本田(D) 倉方(E) 石井(G)	薬師寺 虎招提寺	銀閣三十三間堂	金閣龍安寺 天竜寺

旅 館 部 屋 割

大文字旅館

2A	室番号	氏 名	人 数
男子	2 3 3	相原・伊地知・伊東・稲員・井上・内田・遠田・久保田・栗原・高田(亮) <u>竜</u>	1 1 名
	3 3 1	<u>石戸</u> ・梅沢(秀)・鈴木・早川・原田・兵藤・福田・松樹	8 名
	3 3 2	木村・小島・上甲・ <u>高田(豊)</u> ・中村(隆)・野口・比谷・嶺・宮川	9 名
	3 3 3	飯塚・梅沢(和)・杉浦・田中・ <u>中村(正)</u> ・樋本・福本・三浦	8 名
女子	4 3 1	飯島・上田・楠川・ <u>斎藤</u> ・志村・鈴木・高橋・山田	8 名
	3 2 3	市橋・ <u>加藤</u> ・広岡・村田・余吾	5 名

2B	室番号	氏 名	人 数
男子	2 1 3	旦尾・荒井・江口・花岡・西垣・笹木・甲・平塚・ <u>山崎</u> ・上野・苗代・ 松永・高森・三宅	1 4 名
	2 1 2	安食・ <u>金田</u> ・小野・久木元・中村・森井・吉田・小島・高橋・三川	1 0 名
	2 1 1	石下・稲垣・大野・竹内・松平・小瀬村・福島・ <u>中江</u> ・佐藤・皆川・ 米沢・若月	1 2 名
女子	4 3 2	相川・伊藤・岡・奥羽・柴田・杉浦・立木・伊達・野田・藤原・ <u>森</u> ・ 森山	1 2 名

2C	室番号	氏 名	人 数
男子	1 2 1	斉藤・土屋・上原・松村・栗屋・長野・宮部・若尾・ <u>高城</u> ・丸藤・坂本・ 今津・中久木・阪川	1 4 名
	1 2 2	<u>川崎</u> ・山本・今井・弓家田・森田・清水・中山・中村・土橋・山下・ 萩原・東・渡部・横川	1 4 名
	1 2 3	加藤・川又・吉村・芥川・ <u>足立</u> ・佐瀬・鈴木・吉原	8 名

2C	室番号	氏 名	人 数
女子	3 2 6	大野・磯・ <u>川島</u> ・佐久間・	4 名
	4 3 3	野村・八嶋・坂下・市来・ <u>相沢</u> ・松岡・仲田・渡辺	8 名

2D	室番号	氏 名	人 数
男子	1 2 6	山本・桑田・武居・吉松・ <u>小林（正）</u>	5 名
	3 3 5	斉藤・浅原・蒔田・ <u>林</u> ・岡田・清水・中江・三ノ輪・半田・本田	1 0 名
	3 3 6	渡辺（浩）東條・三崎・黒田・ <u>森</u> ・針ヶ谷・波木井・峰村・有沢・永山 藤井・岡本	1 2 名
	3 3 7	角田・井本・小林（隆）・ <u>永見</u> ・藤原・青木・深沢・渡辺（康）・小池	9 名
女子	4 3 5	依田・小久保・大松沢・田中・岸上・川田・高橋	7 名
	3 2 5	中村・五十嵐・阪本・角谷・石井	5 名

2E	室番号	氏 名	人 数
男子	1 2 5	青柳・池山・岩本・浦部・金沢・鈴木（大）・鈴木（崇）・東島・平沢 山田（匠）・ <u>山田（知）</u> ・横田	1 2 名
	2 2 2	石田・ <u>大谷</u> ・小原・刈間・岸田・木下・倉方・佐藤・寺林・富安・ 中川原・長沢・中野・間・馬場・浜中・広野・溝口・美野輪・矢口・山 知・吉安	2 2 名
女子	5 3 1	青野・荒井・京田・武安・田沢・ <u>水沢</u> ・水谷・吉田	8 名
	3 2 5	加藤・清水・手塚・ <u>新津</u> ・古田	5 名

2F	室番号	氏 名	人 数
男子	2 1 5	水戸野・ <u>杉田（伸）</u> ・大野・三木・塙・西川・吉村	7 名
	2 1 6	<u>加藤</u> ・飯田・松下・名木田・大場・藤岡	6 名
	2 1 7	森重・森・牧・ <u>丸山</u> ・鈴木（輝）・相原	6 名
	2 1 8	土橋・ <u>落合</u> ・岡本・岩田・杉原・小穴	6 名
	3 2 7	杉田（健）・新・巢山・ <u>内田</u>	4 名
	3 2 8	松尾・大石・ <u>千葉</u> ・友光・鈴木（裕）	5 名
女子	3 2 2	相川・荒木・小林・広瀬・ <u>諸橋</u>	5 名

2 F	室番号	氏 名	人 数
女子	4 3 6	有馬・石田・伊藤・岩崎・ <u>岩本</u> ・竹山・渋谷・西尾	8 名

2 G	室番号	氏 名	人 数
男子	2 2 1	宇佐川・小川・鎌田・窪木・坂倉・柴橋・島・高品・高橋(仁)・野呂 堀田・松岡・ <u>丸田</u> ・宮田・矢花	1 5 名
	2 2 3	<u>安達</u> ・石田・岩本・大久保・小笠原・小林・須賀・鈴木(章)・高橋(重) 田村・長島・中村・西村・野村	2 0 名
女子	3 2 3	高城・中富・ <u>古川</u> ・松尾	4 名
	4 3 7	石井・塩村・鈴木(直)・鈴木(佳)・西巻・細田・ <u>堀川</u> ・松原	8 名

2 H	室番号	氏 名	人 数
男子	2 3 0	吉田・岡崎・山本・大沢・ <u>野口</u> ・田辺・原山・大西・神沢・後藤	1 0 名
	2 3 1	岡部・北村・小川・小松原・ <u>佐藤</u> ・河村・高野・和賀・井上・美土路・ 齊藤・高原	1 2 名
	2 3 2	高尾・塚本・望月・ <u>南雲</u> ・高島・福島・打田・杉浦・高嶺・藤森・黒川 国井・西脇	1 3 名
女子	3 2 2	佐々木・西・山下・湯川・上島	5 名
	4 3 8	<u>岡村</u> ・安藤・北島・木庭・小室・染野・千原・長倉	8 名

京都御殿荘

2 A	室番号	氏 名	人 数
男子	4 0 3	小島・ <u>高田(豊)</u> ・中村(隆)・比谷・宮川	5 名
	6 0 6	梅沢(和)・木村・上甲・田中・ <u>中村(正)</u> ・野口・福本・嶺・飯塚	9 名
	6 0 7	<u>石戸</u> ・梅沢(秀)・鈴木・早川・原田・兵藤・福田・松樹	8 名
	6 0 8	相原・伊地知・伊東・稲員・井上・内田・遠田・久保田・栗原・高田(亮) <u>竜</u>	1 1 名

2A	室番号	氏 名	人 数
男子	609	<u>杉浦</u> ・樋本・三浦	3名
女子	108	<u>市橋</u> ・上田・加藤・斉藤・志村・高橋・ <u>余吾</u>	7名
	205	<u>飯島</u> ・楠川・鈴木・広岡・村田・山田	6名

2B	室番号	氏 名	人 数
男子	308	旦尾・荒井・江口・花岡・西垣・笹木・甲・平塚・ <u>山崎</u> ・苗代・上野・松永・高森・三宅	14名
	307	安食・ <u>金田</u> ・小野・久木元・中村・森井・吉田・小島・高橋・三川・松平	11名
	306	石下・稻垣・大野・竹内・佐藤・小瀬村・福島・ <u>中江</u> ・皆川・米沢・若月	11名
女子	101	相川・伊藤・岡・奥羽・柴田・杉浦・立木・伊達・野田・藤原・ <u>森</u> ・森山	12名

2C	室番号	氏 名	人 数
男子	502	川崎・山本・ <u>今井</u> ・弓家田・森田・吉原・清水・中山・中村・土橋・山下・萩原・東・渡辺・横川	15名
	503	斉藤・土屋・上原・松村・栗屋・長野・ <u>高城</u> ・宮部・若尾・丸藤・坂本・今津・中久木・阪川	14名
	405	<u>芥川</u> ・加藤・川又・吉村・佐藤・足立・鈴木	7名
女子	208	<u>大野</u> ・磯・川島・佐久間・八嶋・坂下	6名
	209	<u>渡辺</u> ・野村・市来・相沢・松岡・仲田	6名

2D	室番号	氏 名	人 数
男子	505	山本・渡辺(浩)・深沢・ <u>永見</u> ・青木・藤原・三ノ輪・武居・小林(正)・吉松・岡田・中江・中江・清水・渡返(康)	15名
	506	斉藤・蒔田・林・東條・三崎・岡本・半田・ <u>森</u> ・黒田・斜ヶ谷・波木井・峰村・永山・有沢・藤井・本田	16名
	507	浅原・ <u>角田</u> ・井本・小林(隆)・桑田・小池	6名

2D	室番号	氏 名	人 数
女子	202	川田・阪本・五十嵐・依田・高橋	5名
	203	小久保・岸上・石井・田中・大松沢・角谷	6名

2E	室番号	氏 名	人 数
男子	408	<u>青柳</u> ・岩本・金沢・山田（匠）	4名
	410	石田・刈間・ <u>岸田</u> ・浜中・広野・長沢・溝口・矢口・山崎	9名
	411	<u>池山</u> ・浦部・木下・鈴木（大）・平沢・横田	6名
	412	大谷・小原・ <u>倉方</u> ・佐藤・富安・中川原・美野輪	7名
	413	鈴木（崇）・寺林・中野・間・馬場・東島・ <u>山田（知）</u> ・吉安	8名
女子	103	加藤・清水・武安・手塚・新津・古田・ <u>水沢</u> ・水谷	8名
	106	<u>青野</u> ・荒井・京田・田沢・吉田	5名

2F	室番号	氏 名	人 数
男子	302	松尾・千葉・ <u>友光</u> ・大場・水戸野・飯田・鈴木（裕）・牧・大野・岩田 塙・大石	12名
	303	小穴・森重・杉原・落合・森・相原・岡本・土橋・ <u>西川</u> ・吉村	10名
	305	丸山・ <u>三木</u> ・鈴木（輝）・加藤・名木田・松下・巢山・新・内田・ 杉田（伸）・杉田（健）・藤岡	12名
女子	105	相川・石田・小林・竹山・広瀬・ <u>諸橋</u> ・渋谷	7名
	107	荒木・有馬・伊藤・岩崎・ <u>岩本</u> ・西尾	6名

2G	室番号	氏 名	人 数
男子	401	窪木・坂倉・ <u>柴橋</u> ・高橋（仁）・堀田・松岡	6名
	402	<u>大久保</u> ・小笠原・須賀・高橋（重）・長島・野村・長谷部・原田・森田	9名
	406	<u>安達</u> ・石田・鈴木（章）	3名
	407	<u>岩本</u> ・小林・田村・西村・中村・藤田・山崎・湯山	8名
	409	宇佐川・小川・鎌田・島・高品・野呂・ <u>丸田</u> ・宮田・矢花	9名
女子	206	石井・高城・中富・ <u>古川</u> ・松尾	5名
	207	塩村・鈴木（直）・鈴木（佳）・西巻・細田・ <u>堀川</u> ・松原	7名

2H	室番号	氏 名	人 数
男子	5 0 1	岡部・北村・小川・小松原・ <u>佐藤</u> ・河村・高野・高原・和賀・井上・ 美土路・齊藤	1 2 名
	6 0 1	吉田・岡崎・山本・大沢・ <u>野口</u> ・田辺・原山・大西・神沢・後藤	1 0 名
	6 0 2	杉浦・高嶺・藤森・黒川・ <u>国井</u> ・西脇	6 名
	6 0 3	高尾・塚本・望月・ <u>南雲</u> ・高島・福島・打田	7 名
女子	1 0 9	木庭・佐々木・染野・西・ <u>山下</u> ・湯川・上島	7 名
	1 1 0	安藤・ <u>岡村</u> ・北島・小室・千原・長倉	6 名

参 加 者 名 票

2年A組 (井村・北地)					2年B組 (伊部・鈴木)				
1	相	原	誠		1	旦	尾	衛	
2	飯	塚	直	人	2	荒	井	則	一
3	伊	地	知	一	3	安	倉	良	孝
4	石	戸	秀	明	4	石	下	公	敏
5	伊	東	重	明	5	稻	垣		敦
6	井	上		定	6	上	野		博
7	稻	員	尚	志	7	江	口	誠	敏
8	内	田	尚	夫	8	大	野	修	一
9	梅	沢	和	也	9	小	野		勝
10	梅	沢	秀	明	10	金	田		崇
11	遠	田		潔	11	甲		泰	宏
12	木	村		毅	12	久	木	元	嘉
13	久	保	田	兼	13	小	島	正	昭
14	栗	原		隆	14	小	瀬	村	之
15	小	島	賢	一	15	笹	木	和	博
16	上	甲		幹	16	佐	藤	孝	義
17	杉	浦		純	17	高	橋	正	雄
18	鈴	木	健	二	18	高	森	英	明
19	高	田		亮	19	竹	内	洋	史
20	高	田	豊	彦	20	中	江		一
21	田	中	篤	太	21	中	村		順
22	中	村	隆	夫	22	苗	代	義	滋
23	中	村	正	弘	23	西	垣	晋	明
24	野	口	秀	世	24	花	岡	正	一
25	早	川		博	25	平	塚	公	平
26	原	田	康	弘	26	福	島	雄	一
27	樋	本	英	一	27	松	平	忠	弘
28	比	谷		茂	28	松	永	明	夫
29	兵	藤	弘	継	29	三	川		卓
30	福	田		宏	30	皆	川	好	文
31	福	本	一	夫	31	三	宅	吉	和
32	松	樹	道	真	32	森	井	茂	弘
33	三	浦	敏	洋	33	山	崎	明	彦
34	嶺		允	晴	34	吉	田	修	之
35	宮	川	淳	一	35	米	沢	文	彦
36	竜		慎	一	36	若	月		保
37	飯	島	啓	子	37	相	川	玲	子
38	市	橋	良	子	38	伊	藤	公	子
39	上	田	雅	子	39	岡		百	合
40	加	藤	知	子	40	奥	羽	史	子
41	楠	川	敦	子	41	柴	田	佳	子
42	斉	藤	和	子	42	杉	浦	晶	子
43	志	村	や	い	43	立	木		薫
44	鈴	木	雅	子	44	伊	達	淳	子
45	高	橋	京	子	45	野	田	和	美
46	広	岡	由	美	46	藤	原	容	子
47	村	田	京	子	47	森		厚	子
48	山	田	圭	子	48	森	山	朝	子
49	余	吾	は	る	49				
50					50				

2年C組 (岩波・沢)					2年D組 (石島・大西)				
1	芥	川	正	敬	1	青	木	秀	夫
2	足	立	泰	之	2	浅	原	寛	人
3	栗	屋	光	弘	3	有	沢		映
4	今	井		肇	4	井	本	秀	之
5	今	津	清	彦	5	岡	田		隆
6	上	原	一	郎	6	岡	本	真	人
7	加	藤	淳	一	7	黒	田	俊	洋
8	川	崎	博	行	8	桑	田		満
9	川	又		直	9	小	池	宏	明
10	斉	藤		成	10	小	林	正	典
11	阪	川		肇	11	小	林	隆	治
12	坂	本	健	二	12	斉	藤	雅	彦
13	佐	瀬	行	男	13	清	水	英	夫
14	清	水	良	二	14	武	居		厚
15	鈴	木	徹	太	15	角	田	昌	義
16	高	城	俊	文	16	東	條	光	雅
17	土	橋	英	三	17	中	江	俊	彦
18	土	屋	敏	彦	18	永	見		章
19	中	久	木	均	19	永	山	吉	俊
20	長	野	真	一	20	波	木	井	忠
21	中	村		靖	21	林		守	孝
22	中	山	寛	之	22	針	ヶ	谷	一
23	萩	原	真	一	23	半	田	勝	美
24	東		英	明	24	深	沢	泰	郎
25	松	村	秀	典	25	藤	井	静	雄
26	丸	藤	順	一	26	藤	原	雅	夫
27	宮	部	信	一	27	本	田	真	也
28	森	田	修	司	28	蒔	田		守
29	山	下	博	史	29	三	崎	弘	土
30	山	本	比	呂	30	峰	村	俊	文
31	弓	家	田	洋	31	三	ノ	輪	利
32	横	川	紳	郎	32	森		康	二
33	吉	原	秀	明	33	山	本	大	一
34	吉	村	峰	男	34	吉	松		晃
35	若	尾	博	明	35	渡	辺		治
36	渡	部	信	綱	36	渡	辺	康	隆
37	相	沢	敬	子	37	五	十	嵐	恒
38	磯	貴	美	子	38	石	井	真	喜
39	市	来	雅	子	39	大	松	沢	美
40	大	野	悦	子	40	角	谷	恭	智
41	川	島	宏	美	41	川	田	智	千
42	坂	下	孝	子	42	岸	上	和	早
43	佐	久	典	子	43	小	久	保	有
44	仲	田	由	美	44	阪	本	橋	弘
45	野	村	良	子	45	高	橋	中	淑
46	松	岡	み	ど	46	田	中	村	未
47	八	嶋	洋	子	47	中	依	田	は
48	渡	辺	法	子	48	依	田	は	る
49					49				
50					50				

2年E組 (幸田・坂本)					2年F組 (有元・前中)				
1	青	柳	恵	一	1	相	原	信	夫
2	池	上	良	次	2	飯	田		洋
3	石	田	勝	美	3	岩	田	裕	志
4	岩	本	哲	也	4	内	田	茂	夫
5	浦	部	一	之	5	大	石	雅	也
6	大	谷	純	一	6	大	野		仁
7	小	原	新	一	7	大	場	順	一
8	金	沢	永	典	8	岡	本	裕	二
9	刈	間	達	郎	9	落	合	一	夫
10	岸	田		達	10	加	藤	志	貴
11	木	下		哲	11	小	穴	是	昭
12	倉	方	欣	平	12	新		誠	一
13	佐	藤		任	13	杉	田	健	一
14	鈴	木	大	輔	14	杉	田	伸	樹
15	鈴	木		崇	15	杉	原	伸	夫
16	寺	林	秀	隆	16	鈴	木	輝	男
17	富	安		潔	17	鈴	木	裕	太
18	中	川	米	俊	18	巢	山	広	美
19	長	沢	孝	志	19	千	葉		昇
20	中	野	達	也	20	土	橋	敏	行
21	間		賢	介	21	友	光	厚	直
22	馬	場	信	輔	22	名	木	田	秀
23	浜	中	猛	夫	23	西	川	良	三
24	東	島	和	幸	24	塙		史	生
25	平	沢		理	25	藤	岡	秀	樹
26	広	野	常	也	26	牧		知	宏
27	古	谷	直	人	27	松	尾		健
28	溝	口		謙	28	松	下	光	宏
29	美	野	輪	治	29	丸	山	隆	司
30	矢	口	勝	彦	30	三	木		悟
31	山	崎	茂	雄	31	水	戸	野	孝
32	山	田		匠	32	森	重		毅
33	山	田	知	夫	33	森		能	文
34	横	田	香	苗	34	吉	村		仁
35	吉	安	俊	介	35	相	川	好	子
36	青	野	京	子	36	荒	木	敏	子
37	荒	井	洋	子	37	有	馬	真	理
38	加	藤	え	り	38	石	田	知	恵
39	京	田	純	子	39	伊	藤	美	津
40	清	水	和	佳	40	岩	崎	春	美
41	武	安	敬	子	41	岩	本	真	佐
42	田	沢	優	子	42	小	林	良	江
43	手	塚	弘	子	43	沢	谷	洋	子
44	新	津	あ	や	44	竹	山	牧	子
45	古	田	由	紀	45	西	尾	真	知
46	水	沢	啓	子	46	広	瀬	美	登
47	水	谷	篤	子	47	諸	橋	喜	久
48	吉	田	真	起	48				
49					49				
50					50				

2年G組 (岡村・横山)					2年H組 (豊沢・吉江)				
1	安	達	俊	行	1	井	上	一	幸
2	石	田		功	2	打	田		宏
3	岩	本	広	美	3	大	沢		雅
4	宇	佐	川	俊一郎	4	大	西	伸	郎
5	大	久	保	秀城	5	岡	崎	真	彦
6	小	笠	原	剛司	6	岡	部	崇	文
7	小	川		泰	7	小	川		裕
8	鎌	田	正	直	8	河	村	厚	夫
9	窪	木		稔	9	神	沢		隆
10	小	林		公	10	北	村	真	邦
11	坂	倉		修	11	国	井	清	人
12	柴	橋	博	之	12	黒	川	泰	弘
13	島		賢	二	13	後	藤	周	一
14	須	賀	晶	彦	14	小	松	原	充
15	鈴	木	章	一	15	斎	藤	賢	一
16	高	品		敦	16	佐	藤	雄	一郎
17	高	橋	重	雄	17	杉	浦		晃
18	高	橋		仁	18	高	尾	英	昭
19	田	村	寿	朗	19	高	島	弘	道
20	長	島		徹	20	高	野	直	樹
21	中	村	真	理	21	高	原	昭	典
22	西	村	吉	雄	22	高	嶺	雅	行
23	野	村	俊	之	23	田	辺	丈	二
24	野	呂	和	夫	24	塚	本		泉
25	長	谷	部	雅	25	南	雲	和	則
26	原	田	真次	郎	26	西	脇		正
27	藤	田	勝	也	27	野	口	純	一
28	堀	田	光	春	28	原	山	修	治
29	松	岡	吉	雄	29	福	島	正	治
30	丸	田		彰	30	藤	森	伸	幸
31	宮	田	敏	男	31	美	土	路	純
32	森	田	康	夫	32	望	月		隆
33	矢	花	達	也	33	山	本	土	郎
34	山	崎	竜	弥	34	吉	田		昭
35	湯	山	康	樹	35	和	賀	道	昌
36	石	井	浩	子	36	安	藤	雅	子
37	打	越	優	子	37	上	島	郁	子
38	塩	村	洋	子	38	岡	村	美智	子
39	鈴	木	直	子	39	北	島	綾	子
40	鈴	木	佳	子	40	木	庭	真美	子
41	高	城	佳世	子	41	小	室	恵美	子
42	中	富	啓	子	42	佐々	木	栄	子
43	西	巻	礼	子	43	染	野	峯	世
44	古	川	恵	子	44	千	原		忍
45	細	田		恵	45	長	倉		愛
46	堀	川	広	子	46	西		泰	子
47	松	尾		菊	47	山	下	恵	子
48	松	原	良	枝	48	湯	川	亮	子
49					49				
50					50				

修学旅行参考文献

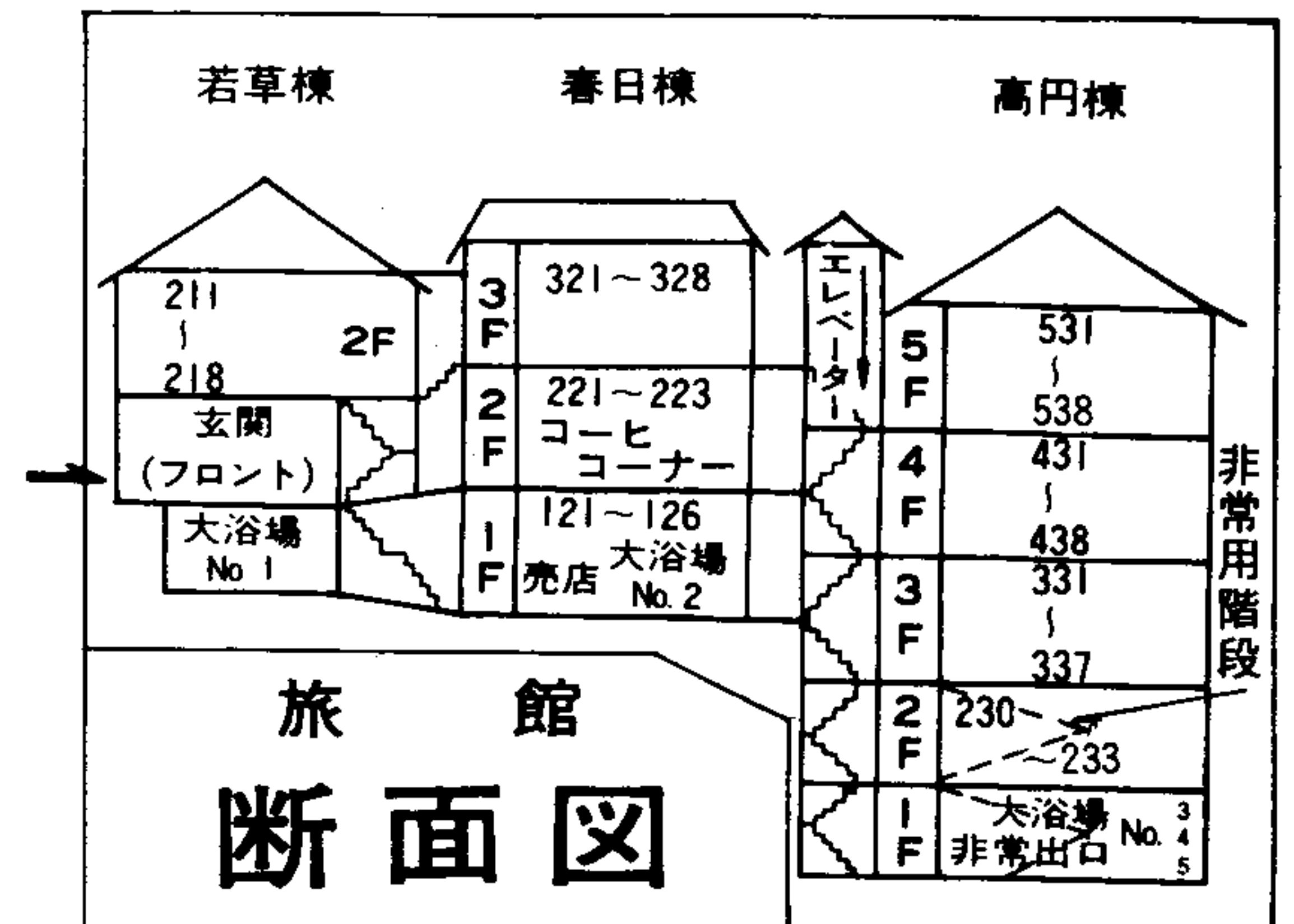
日本の地理 5	近畿編		岩波書店
日本文化史	家永三郎		岩波新書
奈良	直木孝次郎		岩波新書
京都	林屋辰三郎		岩波新書
世界美術全集	日本 1～10		角川書店
日本美術史要説	久野健		弘文館
古寺巡礼	和辻哲郎		岩波書店
大和古寺風物誌	亀井勝一郎		新潮文庫
大和古寺	井上政次郎		角川文庫
日本の文学歴史			角川書店
日本の庭園	吉永茂信		至文堂
飛鳥・白鳳・天平の美術	野間清六		至文堂
日本の彫刻	小林剛		至文堂
日本の建築	藤島亥治郎		至文堂
仏像－心とかたち－	望月信成		NHKブックス
金閣寺	三島由紀夫		新潮文庫
京都	川端康成		新潮文庫
法隆寺・薬師寺・唐招提寺・京の禅寺			
京都の庭・金閣と銀閣・古都の尼寺			淡交社
京の民家・人瀬と大原など			

その他、社会教養文庫（社会思想社）カラー・ブックス（保育社）に奈良・京都関係のものが多数あります。歴史的には日本の歴史（読売新聞社・中央公論社）などの古代を讀んでおくに役に立つでしょう。

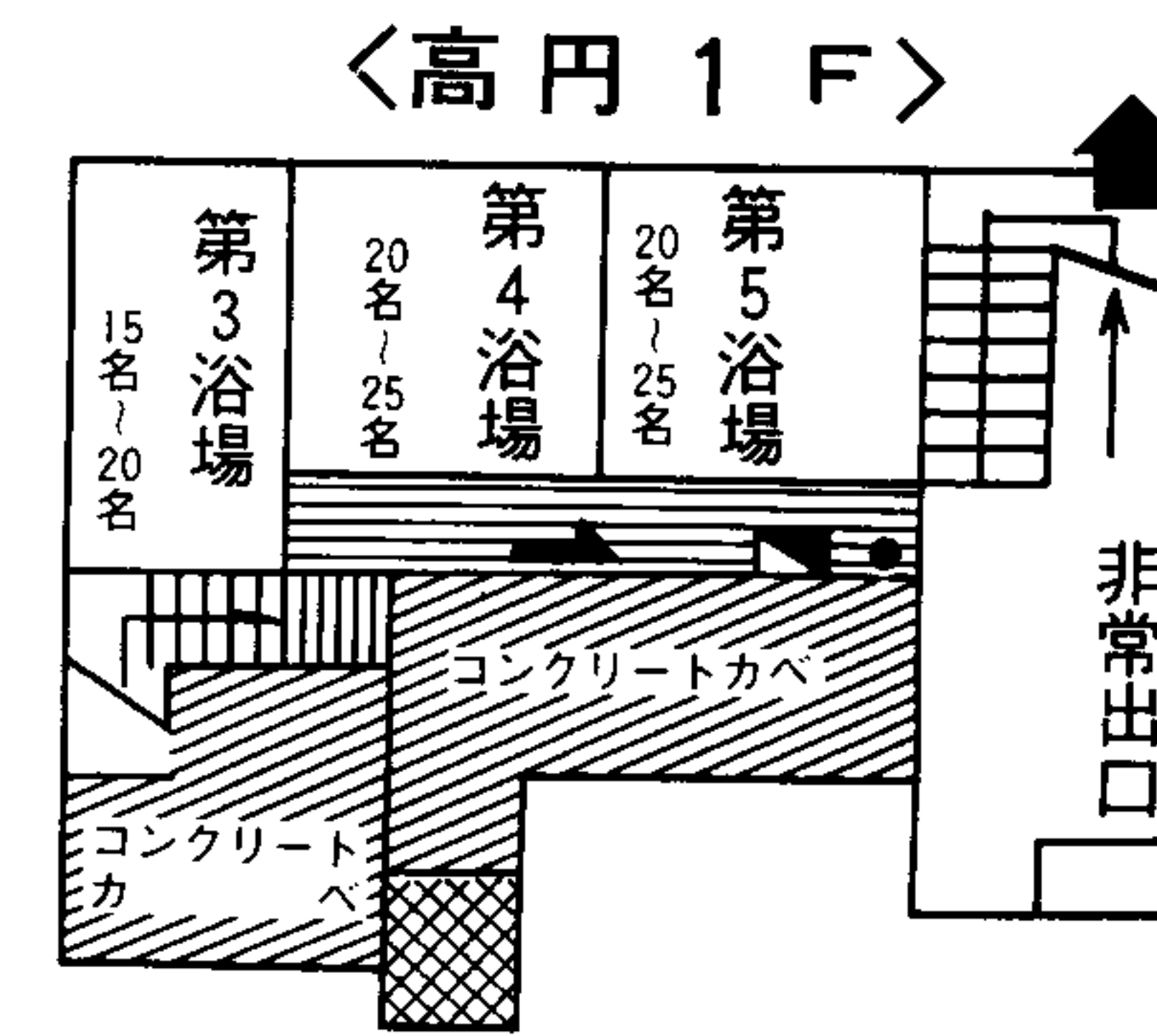
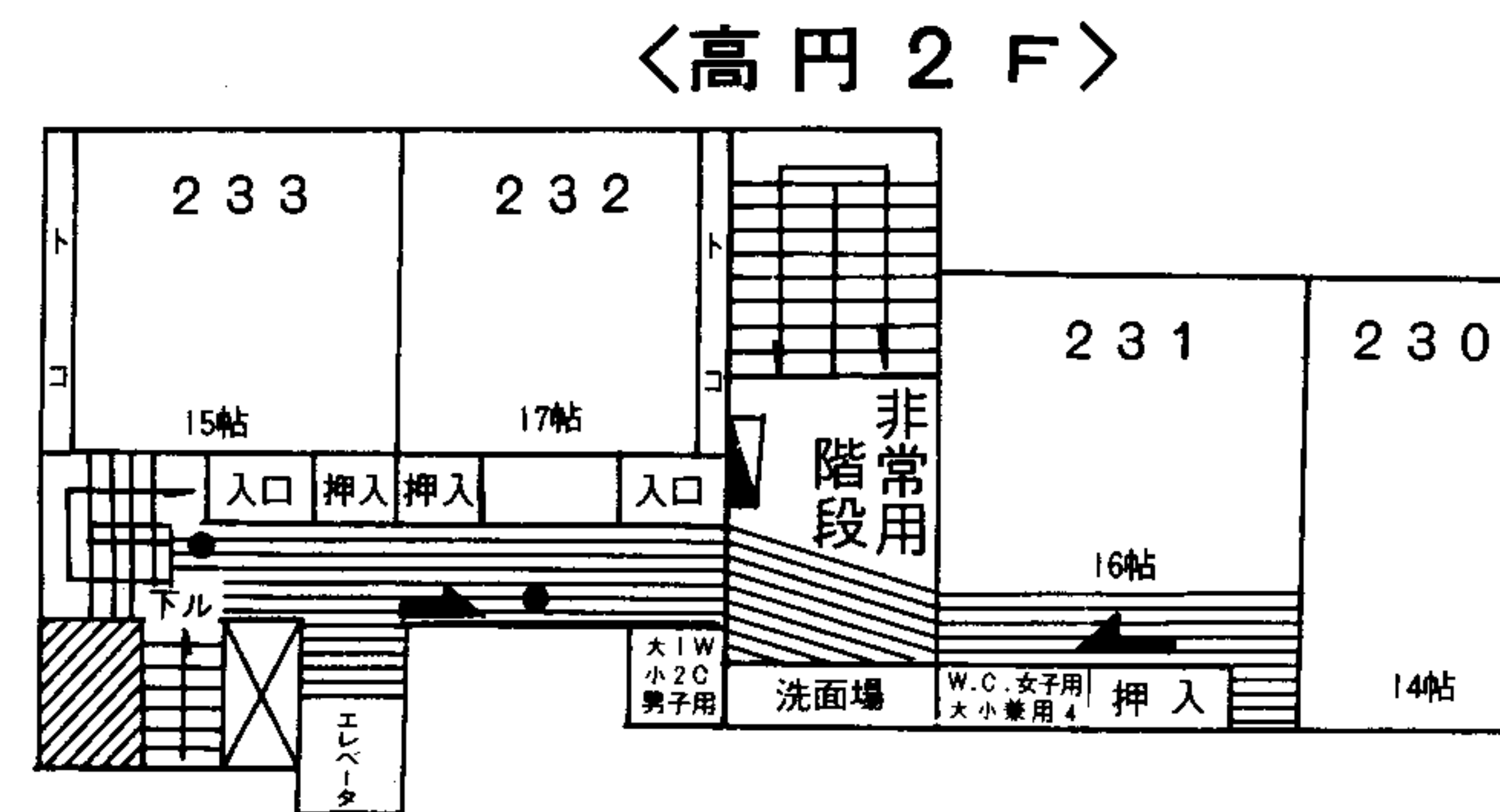
国際観光旅館連盟
日本観光旅館連盟

旅館大文字御客室見取図

奈良公園猿沢池畔(五重塔前) TEL 23-2263~6

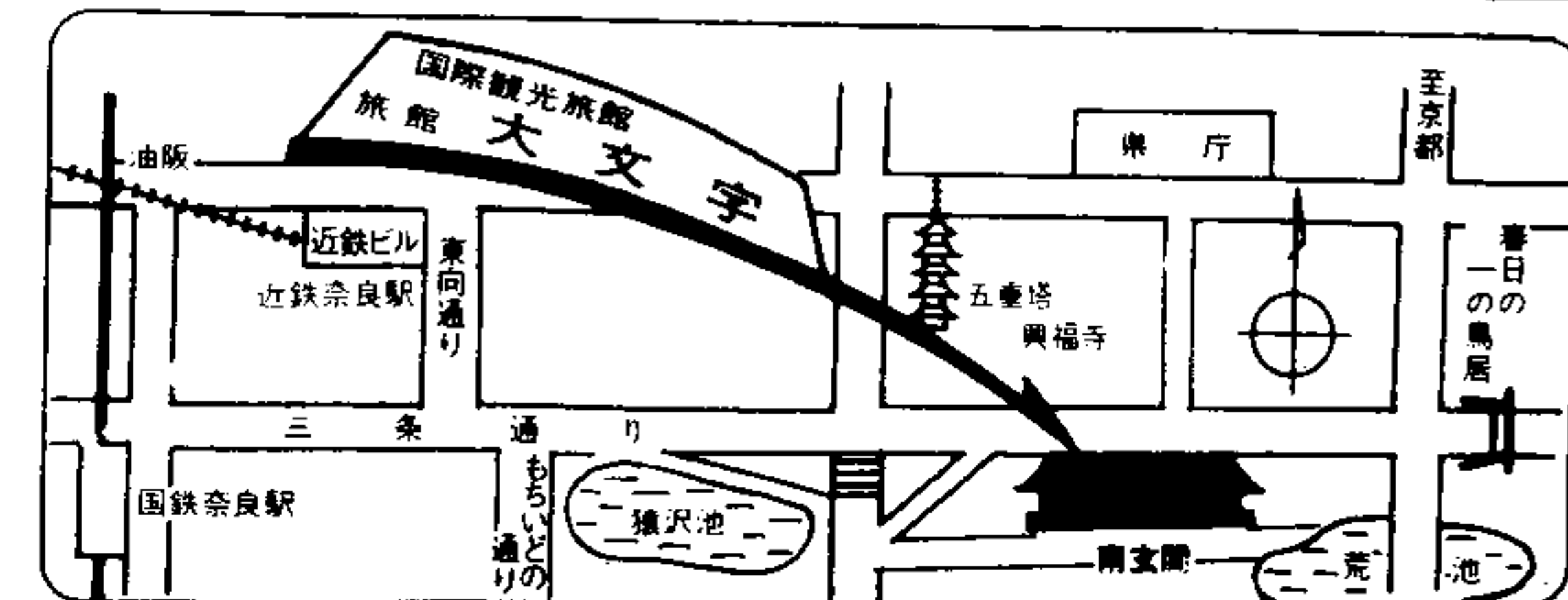
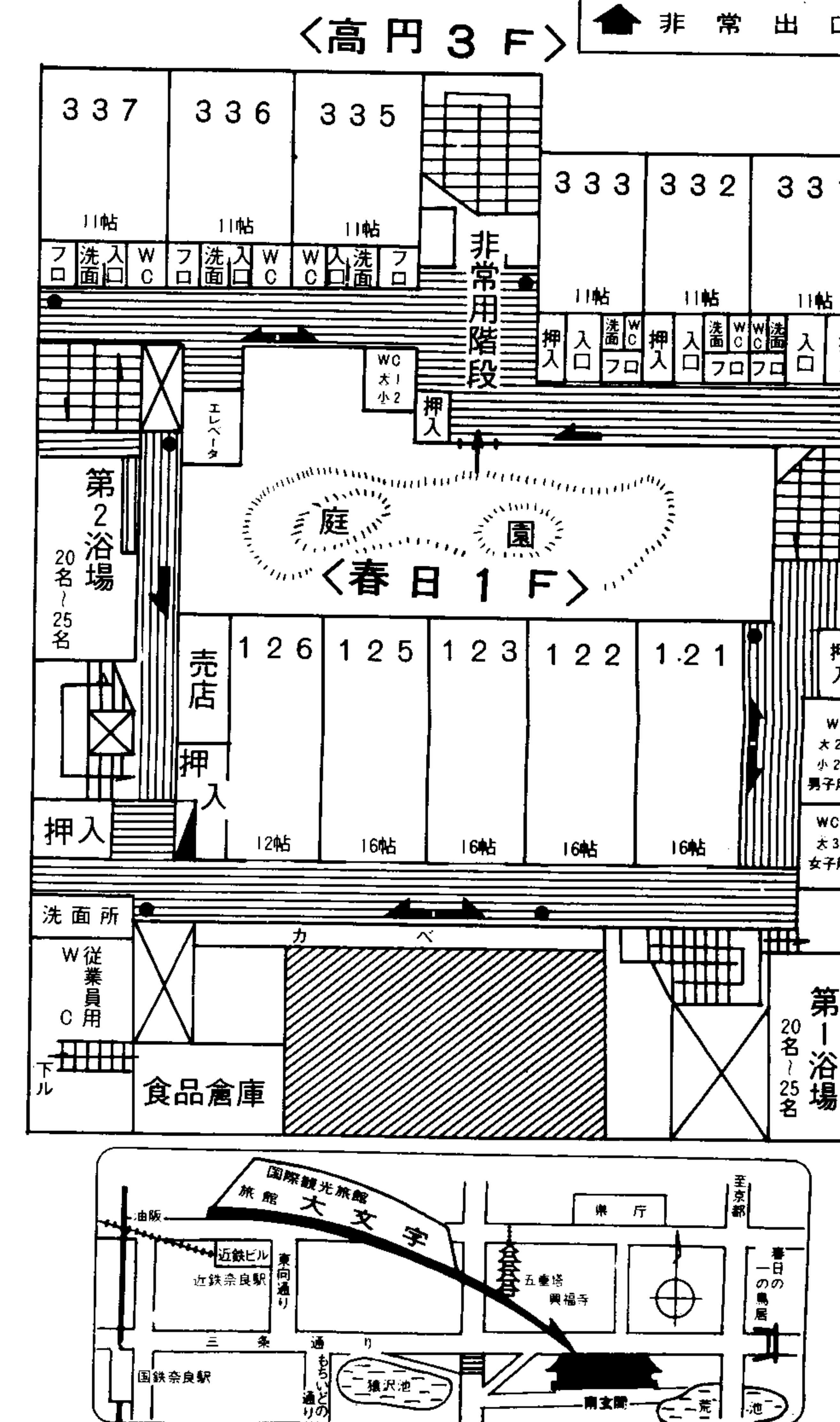
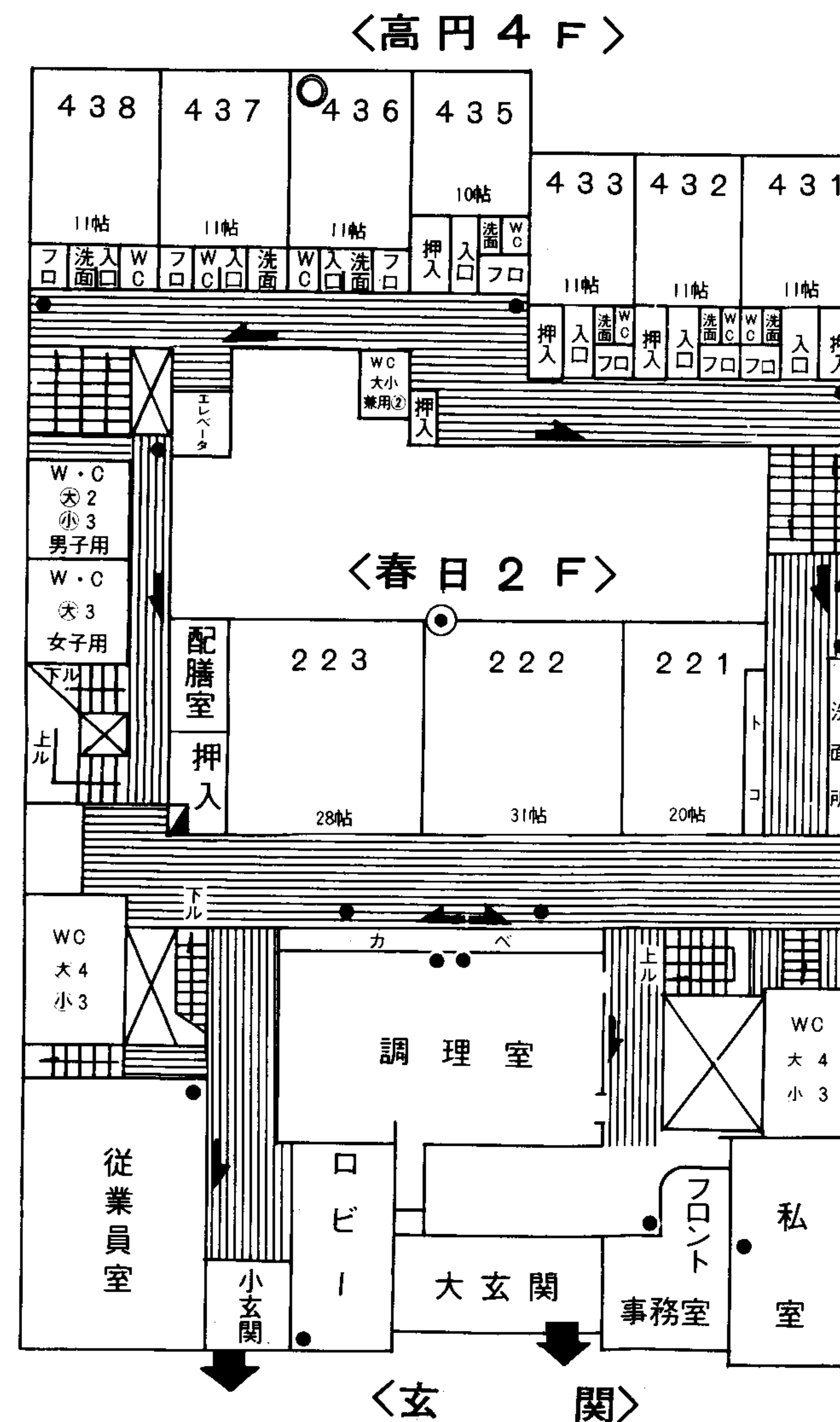
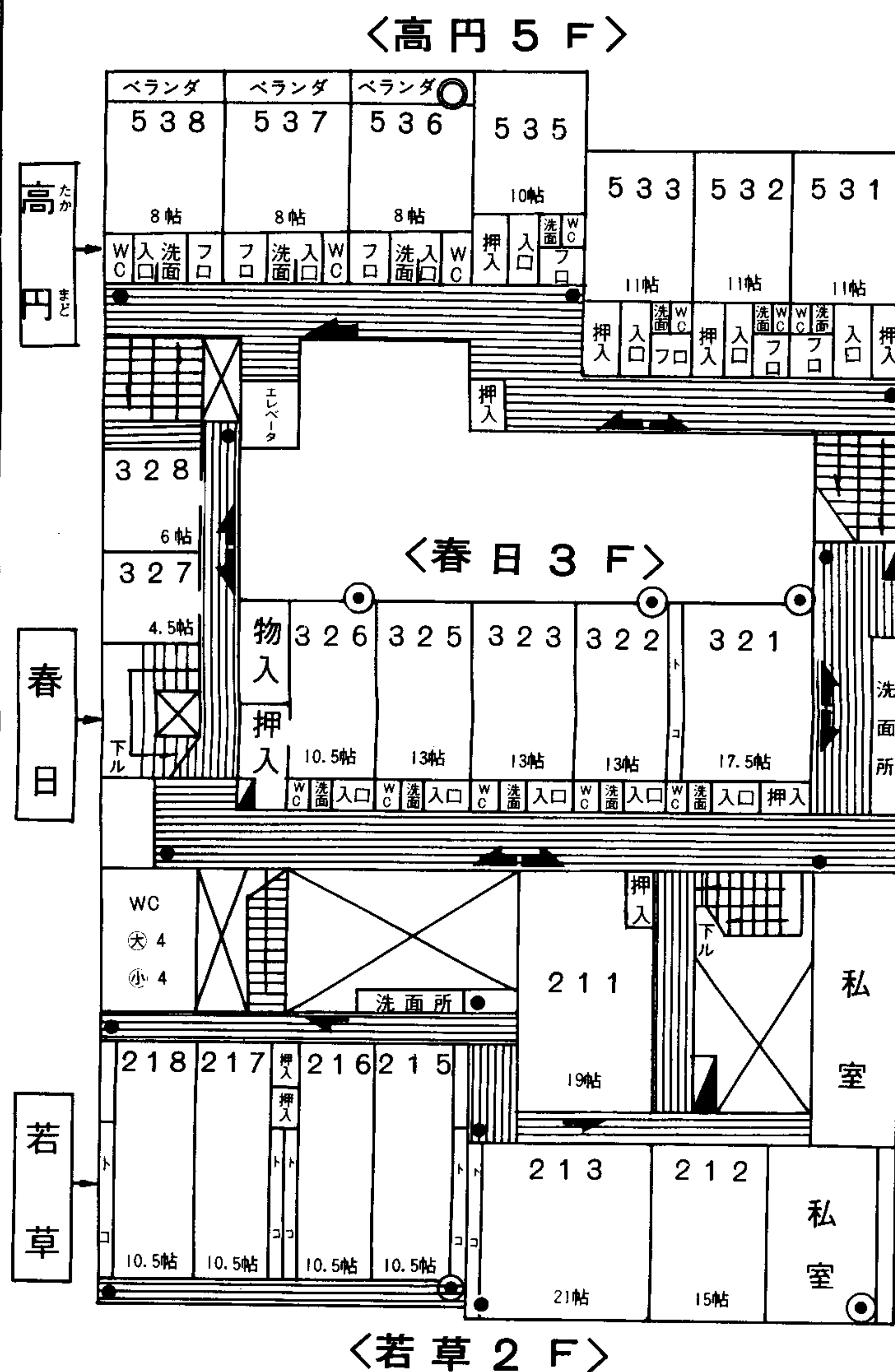


宿泊日	年 月 日				
団体名	様				
宿 泊 人	職 員	生 徒	其ノ他	合 計	名
	男 子	女 子	男 子	女 子	



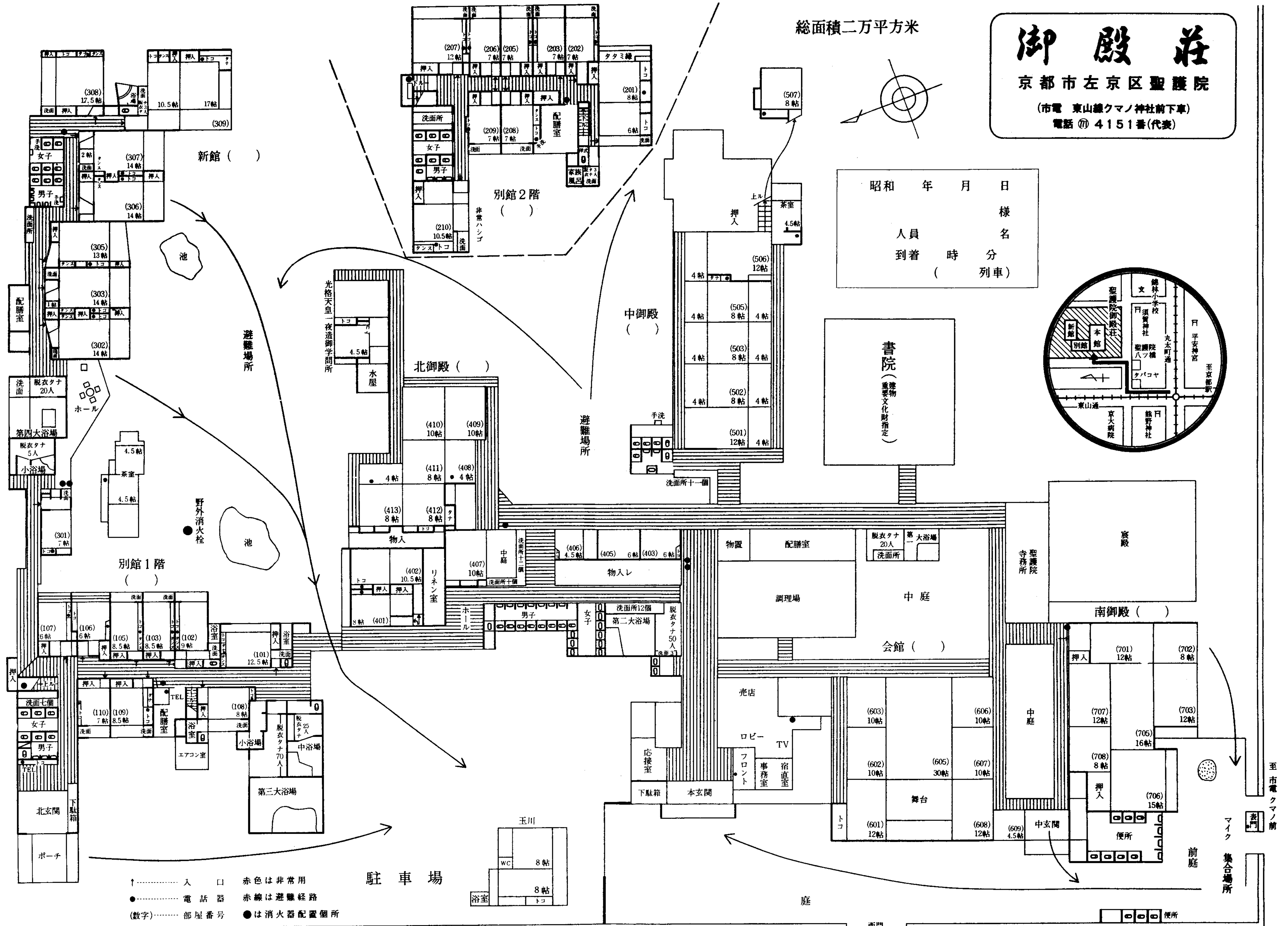
- 消防設備一斉設置済
- 通路誘導標識
 - 消火器設置場所
 - 救助袋設置場所
 - 非常用なわ梯子
 - 消火栓設置場所
 - 非常出口

	室番号	帖数	規定人数	確定人員
高円5F	531	11		
	532	11		
	533	11		
	535	10		
	536	8		
高円4F	537	8		
	538	8		
	431	11		
	432	11		
	433	11		
高円3F	435	10		
	436	11		
	437	11		
	438	11		
	331	11		
春日3F	332	11		
	333	11		
	335	11		
	336	11		
	337	11		
春日2F	321	17.5		
	322	13		
	323	13		
	325	13		
	326	10.5		
春日1F	327	4.5		
	328	6		
	230	14		
	231	16		
	232	17		
若草2F	233	15		
	221	20		
	222	31		
	223	28		
	211	19		
若草1F	212	15		
	213	21		
	215	10.5		
	216	10.5		
	217	10.5		
計		600.5		



(市電 東山線クマノ神社前下車)
電話 ㊦ 4151 番(代表)

人員 名
到着 時 分
(列車)



健康保険被保険者証写

生徒	組番	2年 A組 13番	
	氏名	久保田 兼士	
	生年月日	[REDACTED]	
	被保険者との続柄	[REDACTED]	
記号		[REDACTED]	番号
被保険者	氏名	[REDACTED]	
	生年月日	[REDACTED] 年 [REDACTED] 月 [REDACTED] 日生	
	住所	[REDACTED]	
	資格取得年月日	昭和 [REDACTED] 年 [REDACTED] 月 [REDACTED] 日	
事業所	所在地	[REDACTED]	
	名称	[REDACTED]	
健康保険組合	所在地	[REDACTED]	
	名称 (区名)	[REDACTED]	
交付年月日		昭和 [REDACTED] 年 [REDACTED] 月 [REDACTED] 日	

◎ 必ず記入しておくこと。